
熊谷市

北島遺跡 IV

(第14～16地点)

上之調節池建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告
〈第2分冊〉

1998

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

<第2分冊>

4 第16地点	362
(1) 住居跡	363
(2) 掘立柱建物跡	375
(3) 柵列跡	389
(4) 土壌	390
(5) 井戸跡	401
(6) ビット	410
(7) 性格不明遺構(SX)	431
(8) 溝跡	437
(9) グリッド出土遺物・表面採集遺物	472
5 新旧対照表	
(1) 第14地点	474

(2) 第15地点	476
(3) 第16地点	477
V 付編	482
1 胎土分析	482
2 北島遺跡の古環境変遷	489
3 北島遺跡出土の獣骨類	508
VI 結語	511
1 縄文時代晩期末～弥生時代中期の土器	511
2 北島遺跡の線刻をもつ紡錘車について	516
3 北島遺跡についての小結	529

挿図目次

<第2分冊>

第345図 第16地点全体図	362
第346図 第1号住居跡	363
第347図 第2号住居跡	364
第348図 第3号住居跡	365
第349図 第4号住居跡	366
第350図 第5・6号住居跡(1)	368
第351図 第5・6号住居跡(2)	369
第352図 第8号住居跡出土遺物	370
第353図 第7・8号住居跡	370
第354図 第9号住居跡	371
第355図 第9号住居跡出土遺物	372
第356図 第10・11号住居跡	373
第357図 第10号住居跡出土遺物	374
第358図 第1号掘立柱建物跡	375
第359図 第2号掘立柱建物跡	376
第360図 第3号掘立柱建物跡	377
第361図 第4号掘立柱建物跡	378

第362図 第5号掘立柱建物跡	379
第363図 第6号掘立柱建物跡	380
第364図 第7号掘立柱建物跡	381
第365図 第5・8・12号掘立柱建物跡出土遺物	383
第366図 第8号掘立柱建物跡	382
第367図 第9号掘立柱建物跡	383
第368図 第11号掘立柱建物跡	383
第369図 第10号掘立柱建物跡	384
第370図 第12号掘立柱建物跡	385
第371図 第13号掘立柱建物跡	386
第372図 第14号掘立柱建物跡	387
第373図 第15号掘立柱建物跡	388
第374図 第1・2号柵列跡	389
第375図 土壌(1)	393
第376図 土壌(2)	394
第377図 土壌(3)	395
第378図 土壌(4)	396

第379図	第7・11・13・17号土壌出土遺物	397	第404図	溝跡(1)	438
第380図	第23・30・37・45号土壌出土遺物	398	第405図	溝跡(1断面図)	439
第381図	井戸跡(1)	402	第406図	溝跡(2)	444
第382図	井戸跡(2)	404	第407図	溝跡(2断面図)	445
第383図	第1・2・3号井戸跡出土遺物	406	第408図	溝跡(3)	448
第384図	第7・8・10・16号井戸跡出土遺物	408	第409図	溝跡(3断面図)	449
第385図	ピット(1)	410	第410図	遺出土状況見取図	451
第386図	ピット(2)	411	第411図	第16地点遺物出土状況(1)	452
第387図	ピット(3)	412	第412図	第16地点遺物出土状況(2)	453
第388図	ピット(4)	413	第413図	第1・3・4号溝跡出土遺物	454
第389図	ピット(5)	414	第414図	第5号溝跡出土遺物(1)	456
第390図	ピット(6)	415	第415図	第5号溝跡出土遺物(2)	457
第391図	ピット(7)	416	第416図	第8・12~19号溝跡出土遺物	458
第392図	ピット(8)	417	第417図	第30・35号溝跡出土遺物	460
第393図	ピット(9)	418	第418図	第39・54号溝跡出土遺物	461
第394図	ピット00	419	第419図	第57・58・66・70・71・73・75・76・ 79号溝跡出土遺物	463
第395図	ピット01	420	第420図	第104号溝跡帯金具出土遺物	464
第396図	ピット02	421	第421図	第80・81・104号溝跡出土遺物	465
第397図	ピット03	422	第422図	第110・111号溝跡出土遺物	467
第398図	ピット04	423	第423図	第112・113・115~117・121・125号 溝跡出土遺物	469
第399図	第1・2号性格不明遺構	432	第424図	第100~121・111~112号溝跡出土遺物	470
第400図	第3・4号性格不明遺構	433	第425図	グリッド出土遺物(1)	472
第401図	第5・6号性格不明遺構	434	第426図	グリッド出土遺物(2)	473
第402図	第1・3・7号性格不明遺構出土遺物	435			
第403図	第16地点溝跡紙割図	437			

表 目 次

<第2分冊>

第153表	第9号住居跡出土遺物観察表	372	第159表	第19号土壌出土遺物観察表	397
第154表	第10号住居跡出土遺物観察表	374	第160表	第23号土壌出土遺物観察表	398
第155表	第5・8・12号掘立柱建物跡出土遺物 観察表	382	第161表	第30号土壌出土遺物観察表	398
第156表	第7号土壌出土遺物観察表	397	第162表	第37号土壌出土遺物観察表	398
第157表	第13号土壌出土遺物観察表	397	第163表	第45号土壌出土遺物観察表	398
第158表	第17号土壌出土遺物観察表	397	第164表	16地点土壌一覽表	399
			第165表	第1号井戸跡出土遺物観察表	407

第166表	第2号井戸跡出土遺物観察表	407	第197表	第104号溝跡出土遺物観察表	466
第167表	第3号井戸跡出土遺物観察表	407	第198表	第110号溝跡出土遺物観察表	468
第168表	第8号井戸跡出土遺物観察表	408	第199表	第111号溝跡出土遺物観察表	468
第169表	第10号井戸跡出土遺物観察表	408	第200表	第112号溝跡出土遺物観察表	468
第170表	16地点井戸一覧表	409	第201表	第113号溝跡出土遺物観察表	468
第171表	ピット一覧表	424	第202表	第115号溝跡出土遺物観察表	468
第172表	第1号性格不明遺構出土遺物観察表	436	第203表	第116号溝跡出土遺物観察表	468
第173表	第7号性格不明遺構出土遺物観察表	436	第204表	第117号溝跡出土遺物観察表	470
第174表	第1号溝跡出土遺物観察表	455	第205表	第121号溝跡出土遺物観察表	470
第175表	第3号溝跡出土遺物観察表	455	第206表	第125号溝跡出土遺物観察表	470
第176表	第4号溝跡出土遺物観察表	455	第207表	第100-121号溝跡出土遺物観察表	471
第177表	第5号溝跡出土遺物観察表	457	第208表	第111-112号溝跡出土遺物観察表	471
第178表	第12号溝跡出土遺物観察表	459	第209表	グリッド出土遺物1観察表	472
第179表	第13号溝跡出土遺物観察表	459	第210表	グリッド出土遺物2観察表	472
第180表	第14号溝跡出土遺物観察表	459	第211表	新旧対照表 住居跡	474
第181表	第15号溝跡出土遺物観察表	459	第212表	新旧対照表 掘立柱建物跡	474
第182表	第16号溝跡出土遺物観察表	459	第213表	新旧対照表 土壌	475
第183表	第17号溝跡出土遺物観察表	459	第214表	新旧対照表 井戸跡	475
第184表	第18号溝跡出土遺物観察表	459	第215表	新旧対照表 柵列跡	475
第185表	第30号溝跡出土遺物観察表	459	第216表	新旧対照表 性格不明遺構	475
第186表	第35号溝跡出土遺物観察表	460	第217表	新旧対照表 住居跡	476
第187表	第39号溝跡出土遺物観察表	462	第218表	新旧対照表 掘立柱建物跡	476
第188表	第57号溝跡出土遺物観察表	462	第219表	新旧対照表 井戸跡	476
第189表	第66号溝跡出土遺物観察表	462	第220表	新旧対照表 土壌	476
第190表	第70号溝跡出土遺物観察表	462	第221表	新旧対照表 住居跡	477
第191表	第71号溝跡出土遺物観察表	462	第222表	新旧対照表 柵列跡	477
第192表	第73号溝跡出土遺物観察表	466	第223表	新旧対照表 性格不明遺構	477
第193表	第75号溝跡出土遺物観察表	466	第224表	新旧対照表 掘立柱建物跡	477
第194表	第79号溝跡出土遺物観察表	466	第225表	新旧対照表 土壌	477
第195表	第80号溝跡出土遺物観察表	466	第226表	新旧対照表 井戸跡	477
第196表	第81号溝跡出土遺物観察表	466			

写真図版目次

図版 1上	北島遺跡周辺全景航空写真	下	第21号住居跡カマド
下	北島遺跡周辺全景航空写真	図版14上	第22・23号住居跡
図版 2	北島遺跡周辺 (昭和22年撮影・米軍写真)	中	第21(左)・24(奥)・25号住居跡全景
図版 3上	14地点全景	下	第24号住居跡カマド
下	14地点現況	図版15上	第27号住居跡
図版 4上	14地点東部全景(東)より	中	第29号住居跡カマド遺物出土状況
下	14地点現況(東より)	下	第29号住居跡遺物出土状況
図版 5上	第22・23号住居跡下層縄文出土状態	図版16上	第29号住居跡遺物出土状況
中	弥生土器集中地点(112-101G)	中	左より第33・30・31・32・住居跡
下	弥生土器集中地点(112-101G)	下	第31号住居跡カマド
図版 6上	弥生土器集中区	図版17上	第33号住居跡カマド
中	弥生土器集中地点遺物出土状況 (112-101G)	中	第36号住居跡
下	第49・51・22・20・21・23号土壌(弥生)	下	第38号住居跡
図版 7上	第51号土壌断面(弥生)	図版18上	第39号住居跡カマド
中	第13号土壌(弥生)	中	第40号住居跡
下	第13号土壌遺物出土状況(弥生)	下	第41号住居跡
図版 8上	第3号住居跡全景	図版19上	第41号住居跡カマド
中	第4・5号住居跡遺物出土状況	中	第42(奥)・43号住居跡全景
下	第5号住居跡遺物出土状況	下	第42号住居跡北カマド
図版 9上	第8号住居跡遺物出土状況	図版20上	第42号住居跡東カマド
中	第8号住居跡遺物出土状況	中	第44・45(奥)号住居跡全景
下	第11号住居跡	下	第44号住居跡カマド
図版10上	第12号住居跡遺物出土状況	図版21上	第45号住居跡カマド
中	第15号住居跡	中	第46号住居跡
下	第15号住居跡カマド遺物出土状況	下	第46号住居跡カマド
図版11上	第16号住居跡	図版22上	第46号住居跡紡錘車出土状況
中	第16号住居跡ビット2遺物出土状況	中	第47(左)・48号住居跡全景
下	第17号住居跡	下	第47号住居跡カマド
図版12上	第17号住居跡遺物出土状況	図版23上	第47号住居跡カマド1遺物出土状況
中	第17号住居跡遺物出土状況	中	第47号住居跡カマド2
下	第17号住居跡カマド	下	第48号住居跡カマド遺物出土状況
図版13上	第19号住居跡左から右へ	図版24上	第48号住居跡カマド
中	第21・22・24・25・26号住居跡	中	第49号住居跡
		下	第49・50(奥)号住居跡全景
		図版25上	第49号住居跡カマド1

	中	第51 (右)・52号住居跡		下	第20号掘建柱建物跡 P 11
	下	第53号住居跡	図版38上		第20号掘建柱建物跡 P 6 柱材
図版26上		第54号住居跡	中		第20号掘建柱建物跡 P 5
	中	第55 (奥)・56号住居跡	下		第21 (外側)・22号掘建柱建物跡
	下	第57号住居跡	図版39上		第24 (左側)・25号掘建柱建物跡
図版27上		第57号住居跡東カマド	中		第26号掘建柱建物跡
	中	第58号住居跡	下		第28号掘建柱建物跡
	下	第59号住居跡	図版40上		第29号掘建柱建物跡
図版28上		第59号住居跡カマド 1	中		第30号掘建柱建物跡
	中	第59号住居跡カマド 2	下		第31号掘建柱建物跡
	下	第61号住居跡	図版41上		第32 (奥)・33号掘建柱建物跡
図版29上		第62号住居跡	中		第36号掘建柱建物跡
	中	第63 (中央)・64・65号住居跡	下		第38号掘建柱建物跡
	下	左より第67・68・69号住居跡	図版42上		第40号掘建柱建物跡
図版30上		第67号住居跡遺物出土状況	中		第41号掘建柱建物跡
	中	第67・68・69号住居跡掘り方	下		第43号掘建柱建物跡
	下	第70号下層住居跡	図版43上		第52号土壌遺物出土状況
図版31上		第70号住居跡カマド	中		114-96-b 内ピット
	中	第70号下層住居跡カマド	下		第18号土壌完掘
	下	第70号住居跡掘り方	図版44上		第2号井戸跡
図版32上		第71・72 (奥)号住居跡	中		第5号井戸跡
	中	調査区東北部現況	下		第5号井戸跡
	下	現況第14地点から見た16地点	図版45上		第14号井戸跡
図版33上		第1号掘建柱建物跡	中		第10号井戸跡完掘
	中	第2号掘建柱建物跡	下		北西部遺構群
	下	第4号掘建柱建物跡	図版46上		第1号溝 (上層)
図版34上		第6号掘建柱建物跡	中		北西端部 (南より)
	中	第7号掘建柱建物跡	下		第1号溝
	下	第8号掘建柱建物跡	図版47上		第1号溝完掘
図版35上		第10号掘建柱建物跡	中		第1号溝北部遺物出土状況
	中	第13号掘建柱建物跡	下		第1号溝北部遺物出土状況
	下	第14号掘建柱建物跡	図版48上		第1号溝北部遺物出土状況
図版36上		第15号掘建柱建物跡	中		第1号溝遺物出土状況 (八稜鏡)
	中	第16号掘建柱建物跡	下		第1号溝遺物出土状況 (八稜鏡)
	下	第18号掘建柱建物跡	図版49上		第2号溝
図版37上		第19号掘建柱建物跡	中		第2号溝
	中	第20号掘建柱建物跡	下		第2号溝北壁断面

図版50上	第3号溝遺物出土状況	図版68	第12号住居跡出土遺物
中	第3号溝緑釉陶器出土状況		第13号住居跡出土遺物
下	第7号溝(110-96G)馬歯出土状況		第15号住居跡出土遺物
図版51上	第7号溝(110-96G)馬歯出土状況	図版69	第15号住居跡出土遺物
中	第17号溝遺物出土状況		第16号住居跡出土遺物
下	第17号溝遺物出土状況		第17号住居跡出土遺物
図版52上	第4号井戸跡	図版70	第17号住居跡出土遺物
中	第19・53号溝		第21号住居跡出土遺物
下	第32号溝北端部		第24号住居跡出土遺物
図版53上	第35号溝	図版71	第24号住居跡出土遺物
中	第39・40号溝		第27号住居跡出土遺物
下	第54号溝遺物出土状況	図版72	第28号住居跡出土遺物
図版54上	第54号溝遺物出土状況		第29号住居跡出土遺物
中	調査区東半部全景	図版73	第31号住居跡出土遺物
下	調査区東半部全景		第33号住居跡出土遺物
図版55上	道路状遺構(北より)		第34号住居跡出土遺物
中	道路状遺構馬歯		第36号住居跡出土遺物
下	道路状遺構(西より)		第38号住居跡出土遺物
図版56上	道路状遺構馬歯		第39号住居跡出土遺物
中	道路状遺構(南より)	図版74	第39号住居跡出土遺物
下	道路状遺構土層断面		第40号住居跡出土遺物
図版57上	第1号再葬墓出土土器		第41号住居跡出土遺物
下	グリッド出土土器		第42号住居跡出土遺物
図版58	グリッド出土土器	図版75	第42号住居跡出土遺物
図版59	グリッド出土土器		第44号住居跡出土遺物
図版60	グリッド出土土器		第46号住居跡出土遺物
図版61	グリッド出土土器		第47号住居跡出土遺物
図版62	グリッド出土土器	図版76	第47号住居跡出土遺物
図版63	グリッド出土石器		第48号住居跡出土遺物
図版64	グリッド出土石器		第49号住居跡出土遺物
図版65	第4号住居跡出土遺物	図版77	第49号住居跡出土遺物
	第5号住居跡出土遺物		第50号住居跡出土遺物
図版66	第5号住居跡出土遺物		第51号住居跡出土遺物
	第8号住居跡出土遺物	図版78	第51号住居跡出土遺物
図版67	第8号住居跡出土遺物		第52号住居跡出土遺物
	第11号住居跡出土遺物		第53号住居跡出土遺物
	第12号住居跡出土遺物		第54号住居跡出土遺物

図版79	第54号住居跡出土遺物 第55号住居跡出土遺物 第58号住居跡出土遺物 第59号住居跡出土遺物	図版95	第17号溝跡出土遺物
図版80	第59号住居跡出土遺物 第61号住居跡出土遺物 第62号住居跡出土遺物	図版96	第17号溝跡出土遺物
図版81	第63～65号住居跡出土遺物	図版97	第19号溝跡出土遺物
図版82	第63～65号住居跡出土遺物 第66号住居跡出土遺物 第67号住居跡出土遺物 第70号住居跡出土遺物 第61号土壇出土遺物 第5号井戸跡出土遺物	図版98	第22号溝跡出土遺物 第32号溝跡出土遺物 第34号溝跡出土遺物 第19号溝跡出土遺物
図版83	第47号住居跡出土遺物 第20号掘立柱建物跡出土遺物 第21・22号掘立柱建物跡出土遺物 第24号掘立柱建物跡出土遺物 第1号溝跡出土遺物	図版99	第19号溝跡出土遺物 第2号性格不明遺構出土遺物 第1号溝跡出土遺物
図版84	第16号井戸跡出土遺物 第1号溝跡出土遺物	図版100	第1号溝跡出土遺物 第5号井戸跡出土遺物 第46号住居跡出土遺物 第59号住居跡出土遺物
図版85	第1号溝跡出土遺物	図版101上	第14地点紡錘車
図版86	第1号溝跡出土遺物	下	第15・16地点紡錘車
図版87	第1号溝跡出土遺物	図版102上	第14地点土錘
図版88	第1号溝跡出土遺物	下	第15・16地点土錘
図版89	第1号溝跡出土遺物	図版103上	第14～16地点貝塚穴痕泥岩
図版90	第1号溝跡出土遺物	下	第14～16地点礫石
図版91	第1号溝跡出土遺物	図版104上	第14地点鉄製品
図版92	第1号溝跡出土遺物 第2号溝跡出土遺物 第3号溝跡出土遺物 第4号溝跡出土遺物 第5号溝跡出土遺物	下	第14・15地点鉄製品
図版93	第5号溝跡出土遺物 第7号溝跡出土遺物	図版105上	第15地点全景(南より)
図版94	第7号溝跡出土遺物 第17号溝跡出土遺物	下	第15地点現況(南より)
		図版106上	第3号溝(西より)
		下	第15地点現況
		図版107上	第1(左)・2・3(手前)号住居跡
		中	第2号住居跡カマド
		下	第3号住居跡
		図版108上	第3号住居跡カマド
		中	第4・5(奥)・6(左)号住居跡
		下	第7号住居跡出土状況
		図版109上	第8号住居跡
		中	第8号住居跡カマド
		下	第9号住居跡
		図版110上	第10(内側)・11号住居跡
		中	第10・11・12号住居跡

下 第10号住居跡カマド	中 第9号掘建柱建物跡と道路状遺構 (西より)
図版111上 第13号住居跡	下 第9号掘建柱建物跡と道路状遺構 (西より)
中 第13号住居跡カマド	
下 第14号住居跡	図版123上 第3号溝(東より)
図版112上 第14号住居跡カマド	中 第3号溝土層断面
中 第15・16(内側)号住居跡	下 第3号溝埋跡か
下 第15号住居跡カマド	図版124上 第15号溝5区灰層
図版113上 第17号住居跡遺物出土状況	中 第16号溝灰層
中 第17号住居跡カマド	下 第16号溝
下 第18号住居跡	図版125上 第16号溝5区遺物出土状況
図版114上 第18号住居跡カマド	中 第16号溝灰釉出土状況
中 第19号住居跡	下 第16号溝1区馬歯出土状況
下 第19号住居跡カマド	図版126上 第19号溝3区遺物出土状況
図版115上 第20号住居跡検出状況	中 第19号溝3区遺物出土状況
中 第18(奥)・19・20(中央)・21号住居跡	下 調査区全景(南東より)
下 第20号住居跡カマド	図版127上 道路状遺構検出状況(南より)
図版116上 第22(奥)・23号住居跡	中 第16号溝道路状遺構(南より)
中 左より第25・26・27号住居跡	下 道路状遺構検出状況(西より)
下 第28号住居跡	図版128上 道路状遺構北辺(東より)
図版117上 第28号住居跡カマド	中 道路状遺構屈曲部分(北東より)
中 第29号住居跡	下 道路状遺構路床溝断面
下 第30号住居跡	図版129上 道路状遺構付近遺物出土状況
図版118上 第30号住居跡カマド	中 道路状遺構路床溝土層断面
中 第30号住居跡掘り方	下 馬骨出土状況(東辺)
下 第33号住居跡	図版130上 第1号土墳
図版119上 第1号掘建柱建物跡	中 第4号土墳遺物出土状況
中 第2号掘建柱建物跡	下 第11号土墳
下 左より第3・4・5号掘建柱建物跡	図版131上 第13号土墳
図版120上 第4号掘建柱建物跡	中 第17号土墳遺物出土状況
中 第5号掘建柱建物跡	下 第2号井戸跡
下 第6号掘建柱建物跡	図版132上 ビット114
図版121上 第7号掘建柱建物跡	中 ビット124
中 第8号掘建柱建物跡	下 ビット127
下 第9号掘建柱建物跡と道路状遺構 (東より)	図版133 第2号住居跡出土遺物
図版122上 第9号掘建柱建物跡(東より)	第3号住居跡出土遺物
	第5号住居跡出土遺物

	第10号住居跡出土遺物		第15号溝跡出土遺物
	第12号住居跡出土遺物	図版145上	調査区全景 (東より)
図版134	第12号住居跡出土遺物	下	調査区現況 (東より)
	第13号住居跡出土遺物	図版146上	調査区全景 (南北より)
	第14号住居跡出土遺物	下	調査区現況 (西より)
	第15号住居跡出土遺物	図版147上	調査区東部 (右にSD35)
図版135	第16号住居跡出土遺物	下	調査区土層断面
	第17号住居跡出土遺物	図版148上	第1号住居跡 (掘り方)
	第18号住居跡出土遺物	中	第2号住居跡 (掘り方)
図版136	第20号住居跡出土遺物	下	第3号住居跡 (掘り方)
	第21号住居跡出土遺物	図版149上	第4号住居跡 (掘り方)
	第22号住居跡出土遺物	中	第5 (右側)・6号住居跡
図版137	第24号住居跡出土遺物	下	第9号住居跡・第32号土壇遺物出土状況
	第28号住居跡出土遺物	図版150上	第9号住居跡遺物出土状況
	第29号住居跡出土遺物	中	第10・11 (左) 号住居跡
	第33号住居跡出土遺物	下	第10 (右)・11号住居跡カマドA・B遺物 出土状況
図版138	第5号掘立柱建物跡出土遺物	図版151上	第1・2 (手前) 号掘立柱建物跡
	第9号掘立柱建物跡出土遺物	中	第3号掘立柱建物跡
	第17号土壇出土遺物	下	第5号掘立柱建物跡
	第1号井戸跡出土遺物	図版152上	第6号掘立柱建物跡
図版139	第15号溝跡出土遺物	中	第7号掘立柱建物跡
図版140	第15号溝跡出土遺物	下	第8号掘立柱建物跡
	第16号溝跡出土遺物	図版153上	第9号掘立柱建物跡
図版141	第16号溝跡出土遺物	中	第10号掘立柱建物跡
図版142	第21号溝跡出土遺物	下	第11号掘立柱建物跡
	第9号溝跡出土遺物	図版154上	第12号掘立柱建物跡
	第19号溝跡出土遺物	中	第13号掘立柱建物跡
	第16号溝跡出土遺物	下	第14号掘立柱建物跡
図版143	第21号溝跡出土遺物	図版155上	第32号土壇遺物出土状況
	グリッド7出土遺物	中	第2号井戸跡中層遺物出土状況
	ビット124出土遺物	下	第3号井戸跡遺物出土状況
	グリッド	図版156上	第5号井戸跡
	表面採集	中	第8号井戸跡
図版144	第15号住居跡出土遺物	下	第10号井戸跡
	第25号住居跡出土遺物	図版157上	第11号井戸跡
	第21号溝跡出土遺物	中	第12号井戸跡

	下 第20号井戸跡		第4号溝跡出土遺物
図版158上	第4(左)・5号溝	図版167	第4号溝跡出土遺物
	中 第5号溝(98-104G)遺物出土状況		第5号溝跡出土遺物
	下 第7(右)・9(左)・30号溝	図版168	第5号溝跡出土遺物
図版159上	第30・111号溝		第12号溝跡出土遺物
	中 第35号溝		第13号溝跡出土遺物
	下 第35号溝土層断面	図版169	第14号溝跡出土遺物
図版160上	第39号溝		第17号溝跡出土遺物
	中 第58(手前左)・59(手前右)・60号溝		第30号溝跡出土遺物
	下 第100号溝	図版170	第39号溝跡出土遺物
図版161上	第30(右)・100号溝		第66号溝跡出土遺物
	中 第104号溝	図版171	第66号溝跡出土遺物
	下 第104号溝遺物出土状況		第70号溝跡出土遺物
図版162上	第104号溝		第71号溝跡出土遺物
	中 第104号溝馬骨出土状況		第73号溝跡出土遺物
	下 第104号溝遺物出土状況		第80号溝跡出土遺物
図版163上	第109(右)・110号溝		第104号溝跡出土遺物
	中 第30・110号溝	図版172	第104号溝跡出土遺物
	下 第111号溝		第110号溝跡出土遺物
図版164上	第111・112(手前)号溝合流部		第111号溝跡出土遺物
	中 第111・112号遺物出土状況	図版173	第113号溝跡出土遺物
	下 第115・124・125号溝		第121号溝跡出土遺物
図版165	第9号住居跡出土遺物		第111～112号溝跡出土遺物
	第1号井戸跡出土遺物	図版174	第111～112号溝跡出土遺物
	第2号井戸跡出土遺物	図版175	表面採集・グリッド
	第8号井戸跡出土遺物	図版176	第104号溝跡出土帯金具
	第3号性格不明遺構出土遺物		北島遺跡周辺(昭和22年撮影・米軍写真)
図版166	第10号井戸跡出土遺物	図版177	北島遺跡遠景(北より)
	第1号性格不明遺構出土遺物		北島遺跡遠景(北東より)
	第1号溝跡出土遺物		北島遺跡から北東方向を望む
	第3号溝跡出土遺物		

〈第 2 分冊〉

3. 第16地点

概要

第16地点は、今回調査した3地点の中では最も北側に位置し、第2次調査の第10地点・第3次調査の第13地点の南側に位置し、今回の調査地点である第14地点の北側に相当する。調査区の範囲は約160×53mで、東西に広がる長方形を呈する。

本調査地点は、調査区中央の北寄りに、窪み状の微地形がみられた他はほぼ平坦面を形成している。全体的に東南東方向に緩やかな勾配をもって下がっており、この傾斜に倣って多数の溝跡が走っているのがわかる(第345図)。

また第16地点南西端付近は、谷地形の谷頭で南東方向に開き、第14地点を通じてさらに現在集落の立地する2つの自然堤防を分ける谷地形につながると考えられる。

遺構の時期は第14・15地点と同様に、8世紀後半～11世紀代であるが、溝跡の中には覆土に浅間B軽石を層状に混入する例もあり、12世紀初頭の段階でも、浅くはなっているものの、溝としての機能を果たしていた例があったといえる。

遺物のみではなく、遺物のない遺構の覆土からみて

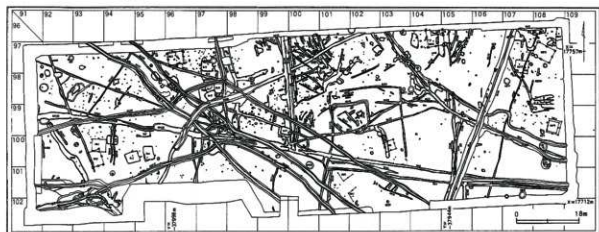
も、全体的に他の地点よりも時期的に降るとの印象が強い。掘立柱建物跡についても、規模からみて中世の可能性が高い例も散見される。また溝跡についても、中世もしくはそれ以降のものが、少なからず存在したと思われる。

検出された遺構は、住居跡11軒・掘立柱建物跡15棟・柵列跡2基・井戸跡20基・溝跡119条・土壇48基・ピット704基である。

本地点の最大の特徴としては、溝跡の数の多さであろう。溝跡は基本的に水路と考えられ、水路の流れる方向も地形に由来すると思われる。そして、これらつながる分岐点的な遺構も検出されている。しかしこれらの他に、溝跡同士が直行するものや、水の流れた痕跡のないものなど、水路だけでは説明できない例があり、問題点となっている。

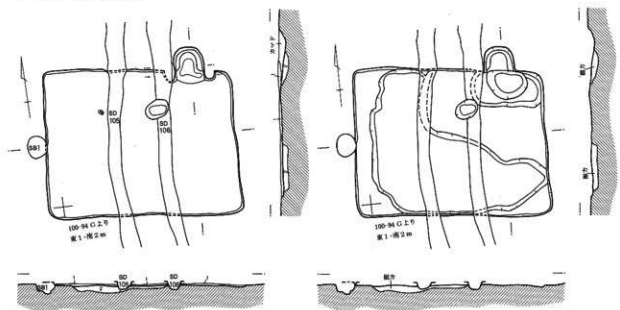
また部分的な検出ではあるが、水場的な機能が推定される地点において、細かく砕かれたと覚しき土器片が、焼土・灰とともに集中して検出されている。さらに、両端を意図的に切断された獣骨なども伴出するなど、祭祀の様相を帯びている例も検出された。

第345図 第16地点全体図



(1) 住居跡

第346図 第1号住居跡

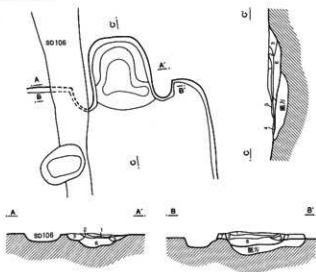


第1号住居跡土層

- 1 褐灰色土 灰白色土の小ブロック少
- 2 褐灰色土 灰白色土の大ブロック多、粘床層土（縦方）

0 L=23.8m 2m

S J 1 カマド



第1号住居跡カマド

- 1 褐灰色土 焼土ブロック多
- 2 褐灰色土 炭化物粒子少
- 3 褐灰色土 焼土粒子・炭化物粒子、灰との混合物
- 4 褐灰色土 混合物なし、灰白色シルト層
- 5 褐灰色土 緻密な灰層
- 6 褐灰色土 混入物なし、燃焼面粘土
- 7 褐灰色土 混入物なし、カマド種か

0 L=23.8m 1m

第1号住居跡（第346図）

99・100-94グリッドに位置する。SD105・106に切られるが、SB1との新旧関係については、本住居跡

が切られていると思われる。

また、住居跡内でSD106と重複しているピットが存在するが、本住居跡に伴うものであるか否かについて

ても不明である。調査時の印象では、ピットが本住居跡を切っている可能性が高いと思われた。プランは長方形を呈する。

遺構の遺存度はきわめて悪いが、プランの痕跡を比較的良くとどめているといえよう。長径×短径×深さは3.14×2.36×0.05mを測る。主軸方向はN-7°-Eを指す。

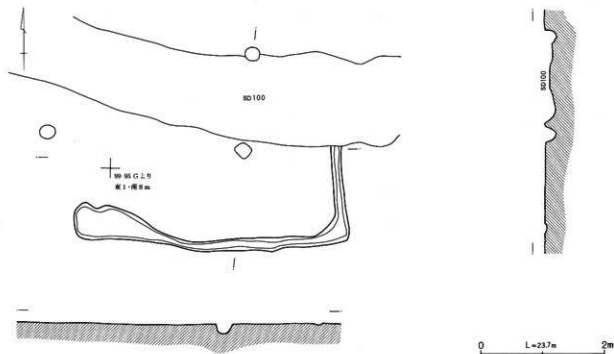
カマド1基が検出されている。カマドは北壁中央より東寄り、北東コーナー際に設けられている。全長89cm・焚口幅49cmを測る。6層は燃焼部構築のための充

填土であろうか。7層は袖部、1～3層は燃焼部に相当すると思われる。概ねカマド内部の焼け方は弱い。

住居跡掘り方は、中央付近を不規則に掘り下げるもので、凹凸が非常に多い。またカマド付近では、長径×短径×深さが100(推定)×60×10cmの土塊状の掘り方が検出されている。これらの掘り方内には、灰白色土の大ブロックを含む褐色土を充填して、床面を構築しているのが観察された。

掘り方底面から土師器環が出土したが、小破片であるため図化には至らなかった。

第347図 第2号住居跡



第2号住居跡(第347図)

99・100-95グリッドに位置する。SD100に切られることによって、プランの大部分が失われている。また後代の水田耕作のため、床面も失っている状況であった。

調査し得た規模は東西4.40m・南北2.25mであった。東西規模については、さらに西まで続く可能性もあるが、取りあえず4.40mとした。

本住居跡のプランについては方形・長方形の両方が考えられる。

(1) 検出し得た範囲のみからみれば、周壁溝はSD100以北には確認されていないことから、SD100の中で納まることになる。この場合の南北の最大規模は3.0mとなり、プランは長方形を呈することになる。

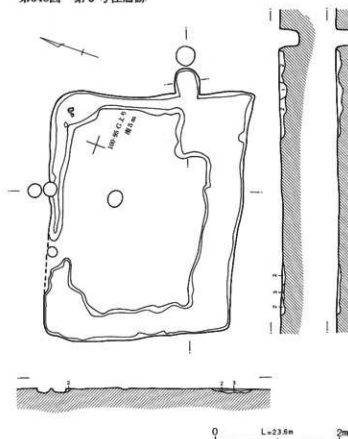
(2) 後生の水田耕作などの擾乱により、SD100以北の周壁溝が失われてしまった場合、東壁・西壁の規模によって、方形・長方形両方の可能性が出てくることになる。

さらにカマドも検出されていないため、主軸方向もN-0°を指すのか、N-90°-Eを指すのか不明であ

る。

周壁溝は東壁の一部分と南壁に巡るものであり、幅10~20cm程であるが、西端部付近では60cm近くに及ぶ。深さは15~20cmを測る。この周壁溝がさらに西側へ続くのか、西壁には周壁溝が存在しないのか、とい

第348図 第3号住居跡



第3号住居跡土層

- | | |
|----------|-------------------|
| 1 褐色土 | 灰白色土ブロック多、粘床 |
| 2 濃い黄褐色土 | 褐色土と灰黄褐色土との混合土、粘床 |
| 3 褐色土 | 炭化物粒子・焼土粒子少、しまり弱 |
| 4 褐色土 | 焼土粒子なし |

第3号住居跡 (第348図)

100-94・95グリッドに位置する。住居跡内に3本のピットが検出されているが、いずれも本住居跡に伴うものではなく、本住居跡がピットに切られていると思われる。

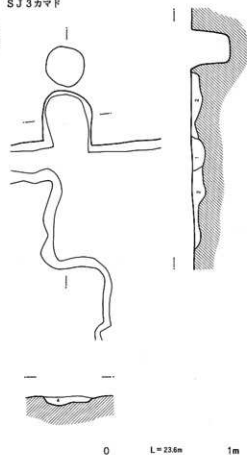
後代の水田耕作によって、遺構上位面は大きく攪乱されている。そのため、本遺構では壁面は遺存しておらず、周壁溝状に巡る掘り方と、カマドの掘り方のみが検出された。掘り方外周は、住居跡壁面のプランを

う点については不明である。

このレベルで周壁溝が検出されていることからみて、掘り方は存在しないと思われる。カマド・貯蔵穴などの施設は確認されなかった。

遺物は全く出土しなかった。

SJ3カマド



反映していると思われるが、これから判断する限りでは、全体的に歪んである。

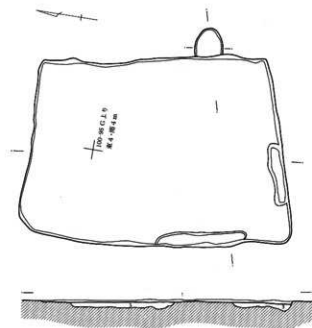
プランは長方形を呈する。長径×短径は3.94×3.19mを測る。主軸方向はN-70°-Eを指す。

カマド1基が検出されている。カマドは東壁中央より、やや南寄りに設けられている。カマドの東側にピットが検出されているが、本住居跡に伴うものではないと思われる。検出時におけるカマド掘り方の規模は、全長50cm・幅40cmを測る。掘り方の最深部は10cm程で

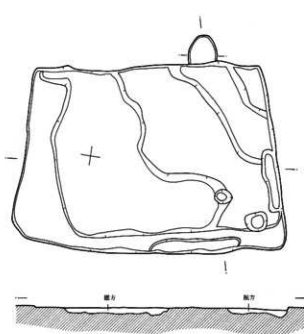
ある。

2層は、住居跡本体の掘り方と同様に、灰白色土のブロックを多く含んだ褐灰色土によって埋め戻されている。

住居跡本体の掘り方は、幅が20~110cmに亘るか概
第349図 第4号住居跡



0 L=23.6m 2m



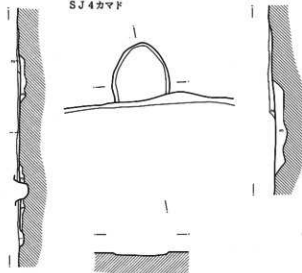
掘り 掘り

0 L=23.6m 2m

ね60cm前後、深さは10cm前後である。そして掘り方内は、カマドの掘り方部分と同じ褐灰色土によって、埋め戻されている。床面は全く遺存していなかった。

土師器の小破片が少数出土したが、図化するには至らなかった。

SJ4カマド



0 L=23.6m 1m

第4号住居跡土層

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロック少
- 2 褐灰色土 埋入物なし、カマド燃焼部、粘土か(残っていない)
- 3 褐灰色土 灰白色土のブロック多、粘床客土(掘り)

第4号住居跡(第349図)

100-95グリッドに位置する。住居跡内の2基のピットは、本住居跡を切っていると思われる。

遺構の遺存度はきわめて悪く、壁面の立ち上がりはごく少ないものの、プランは明瞭に確認できた。プランは方形を呈するが、北壁と南壁は平行しておらず、また東壁・西壁とは直角を呈していない。プランは非常に歪んでいる。

長径×短径×深さは、4.34mと3.7m×3.05×0.06mを測る。主軸方向はN-80°Eを指す。

カマド1基が検出されている。カマドは東壁中央より、南寄りに設けられている。カマドも住居跡同様に遺存度がきわめて悪く、掘り方のみの遺存であった。

カマド掘り方は、全長48cm・幅44cmを測る。住居跡本体の掘り方は、灰白色のブロックを含んだ褐灰色土で埋め戻されている(3層)。カマド部分では、さらにその上位面を褐灰色土で埋め戻して、燃焼部を構築している(2層)。この掘り方の埋め戻し土も、上位面は既に失われているらしく、焼けている痕跡はまったくみられなかった。2層の深度は、概ね5cm程であった。

住居跡本体の掘り方は、北壁～西壁付近をL字型に掘り下げるほか、カマドおよびカマド付近を部分的に掘り下げるもので、凹凸がきわめて多い。掘り方の深さは10～15cm程である。西壁と南壁に部分的に周壁溝が認められることから、調査面は床面の直下であろうと思われる。周壁溝は部分的な遺存であると思われる、幅20～25cm・深さ10cm前後を測る。

土師器壺が出土したが、小破片であるため図化するには至らなかった。

第5号住居跡(第350図)

97-98-97グリッドに位置する。S J 6を切り、S E 2に切られる。本住居跡は、今回の発掘調査で検出された住居跡の内、最北端に位置するものである。

本住居跡も、第16地点のほかの住居跡と同様に、後代の水田耕作によって大きく攪乱されており、遺構の遺存度はきわめて悪く、壁面の立ち上がりはほとんど残っていないという状態であった。

本住居跡はS J 6と重複しており、さらに両住居跡の周辺は浅い窪地状を呈していたらしく、地山には暗褐色土が堆積していた。そのため、この付近は全体的に約10×10m程の範囲が、暗褐色のシミ状を呈する状況であった。

以上の事柄から、当初このシミ状の箇所は住居跡という前提ではなく、性格不明遺構としての認識で調査を開始した。そして、掘り方を掘り切る段階に至って、2軒の住居跡の重複であると判明した。北壁・西壁で周壁溝が遺存しており、掘り方は住居跡の規模・プランを反映していると推定される。

プランはほぼ方形を呈する。掘り方での規模については、長径×短径×深さが3.11×3.4×0.28mを測る。

東壁中央の凸部分は、位置・規模からカマドの可能性が考えられる。但し、住居跡本体と同様にこの部分も掘り方のみの遺存であり、焼土層や灰層はなく、焼けている状況もまったくみられなかった。カマドとして拡大図で示さなかったが、全長70cm・幅60cmを測る。カマドであるとすれば、主軸方向はN-90°Eを指すことになる。

北壁～西壁の周壁溝が、S J 6の周壁溝につながる可能性があること、またこの周壁溝と本住居跡の掘り方が離れていること、これらの点から別の遺構の存在も考えられる。しかし、余りに遺存度が悪すぎるため、ここでは2軒の重複であると判断した。

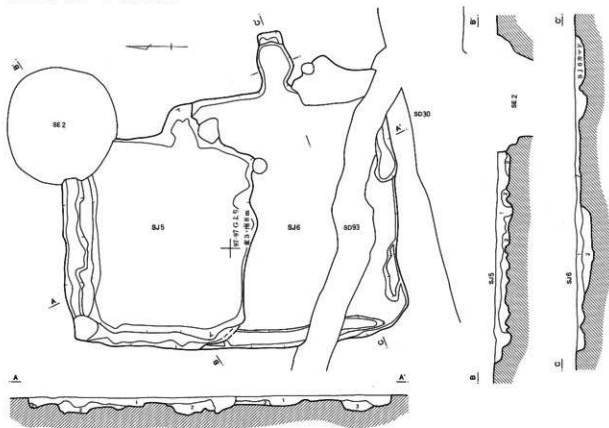
遺物は全く出土しなかった。

第6号住居跡(第350図)

97-98-97グリッドに位置する。S J 5に切られるが、S D 93を切っていると思われる。本住居跡も後代の水田耕作によって大きく攪乱されており、遺構の遺存度はきわめて悪く、壁面の立ち上がりはほとんど残っていないという状態であった。

本住居跡はS J 5と重複しており、さらに両住居跡の周辺は浅い窪地状を呈していたらしく、地山には暗褐色土が堆積していた。そのため、この付近は全体的に約10×10m程の範囲が、暗褐色のシミ状を呈する状況であった。

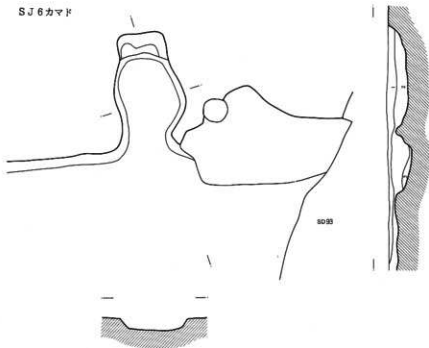
第350図 第5・6号住居跡(I)



第5・6号住居跡土層

- 1 灰褐色土 焼土ブロック・炭化物粒子・地山土少、シルト質、しまり強
- 2 褐色土 地山大ブロック多、シルト質、しまり強
- 3 暗褐色土 地山大ブロック多、シルト質、しまり強、SD93埋土

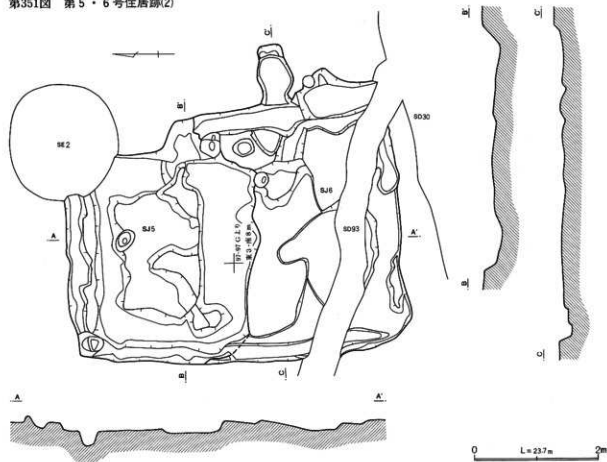
SJ6カマド



第6号住居跡カマド

- 1 暗褐色土 焼土ブロック(φ1cm)・炭化物粒子多、シルト質、しまり強
- 2 灰褐色土 焼土ブロック・炭化物粒子・地山土少、シルト質、しまり強
- 3 褐色土 地山大ブロック多、シルト質、しまり強

第351図 第5・6号住居跡(2)



以上の事柄から、当初のシメ状の箇所は住居跡という前提ではなく、性格不明遺構としての認識で調査を開始した。そして、掘り方を掘り切る段階に至って、2軒の住居跡の重複であると判明した。

西壁・南壁の一部に周壁溝が遺存しており、東壁も一部遺存している。これらの点から、掘り方は住居跡の規模・プランを反映していると推定される。

北壁がS J 5によって切られているが、遺存している範囲内からみて、プランは長方形を呈すると推定される。長径×深さは4.5×0.1mであるが、短径については2.8mまで調査できたにとどまる。主軸方向はN—85°—Eを指す。

カマド1基が検出されている。北壁は残っていないものの、カマドは位置的に、東壁中央に構築されていると思われる。全長100cm・幅40cmを測る。住居跡本体と同様に、カマドの遺存状況はきわめて悪い。3層は

掘り方の埋め戻し土、1・2層は焚口部・燃焼部に相当すると思われる。

カマド右(南)側、本住居跡の東壁外側に緩やかな立ち上がりが見られる。別の住居跡の壁面の可能性も考えられたが、不確定要素が多すぎるため、この部分については住居跡として扱わなかった。

遺物はまったく出土しなかった。

第7号住居跡(第353図)

98-97グリッドに位置する。SD30に切れ、SD8にも切られている可能性が高い。住居跡の上表面も攪乱を受け、壁面の遺存度は低い。本住居跡の北壁は検出されていないが、壁面の立ち上がりが5cm前後という現状では、プランがSD30の中で納まるのか、またはSD30以北まで続くが、既に立ち上がりが失われているのか判断はできない。従って、プランも主軸方向も不明である。遺存範囲内の長径×短径×深さは2.

72×1.78×0.06m。ピットの帰属についても不明である。掘り方はなく、地山を床面としていると思われる。

遺物はまったく出土しなかった。

第8号住居跡 (第352・353図)

98-97グリッドに位置する。SD30・79に切られるが、S J 7を切っていると思われる。

西壁は乱れがあり、東壁は南東コーナーより60cm程の位置から、東に屈曲する。プランは歪むのみではなく、変則的な形態を呈するのであろうか。

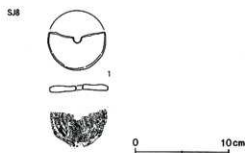
遺存範囲内の長径×短径×深さは、2.83×2.44×0.06mである。主軸方向はN-3°-EまたはN-93°-Wを指すと思われる。

カマドや周壁溝、貯蔵穴は検出されなかった。本住

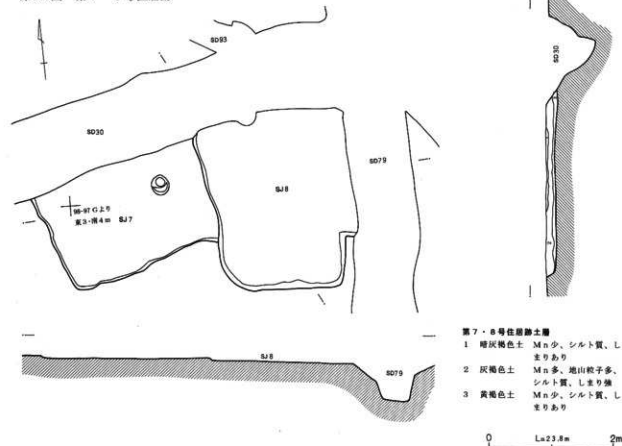
居跡は掘り方をもたず、砂粒を主体とする地山を床面としていると思われる。

出土した遺物は1点のみであった。

第352図 第8号住居跡出土遺物



第353図 第7・8号住居跡



- 第7・8号住居跡土層
- 1 暗灰褐色土 Mn少、シルト質、し
まりあり
 - 2 灰褐色土 Mn多、地山砂子多、
シルト質、しまり稀
 - 3 黄褐色土 Mn少、シルト質、し
まりあり

0 1m 2m

第9号住居跡 (第354・355図)

98-97グリッドに位置する。SD39とSK23に切られる壁面の立ち上がりなどは、第16地点の住居跡の中では、比較的良好であるといえる。

北壁は北(外)側に向かって張り出し、西壁とは直角を呈していない。また北壁と南壁はほぼ平行するが、東壁と西壁はまったく平行していない。

プランは全体的に歪な長方形を呈する。規模は、北壁に近い箇所では長径3.29mであるが、南壁に近い箇所では2.7m程であると思われる。短径については東壁に近い箇所では2.25m程で南壁に届くが、西壁に近い箇所ではプランから推定する限り約2.5mになるとみられる。深さは0.22mを測る。主軸方向はN-67°-Eを指すと思われる。

カマドは検出されてなかったが、SK23の北西部分

に焼土ブロックや炭化物が検出されており、位置的にみても、カマドはSK23によって切られた結果失われたものと推定される。

このことから、カマドは1基であり、東壁中央もしくは南寄りに構築されていたものと思われる。

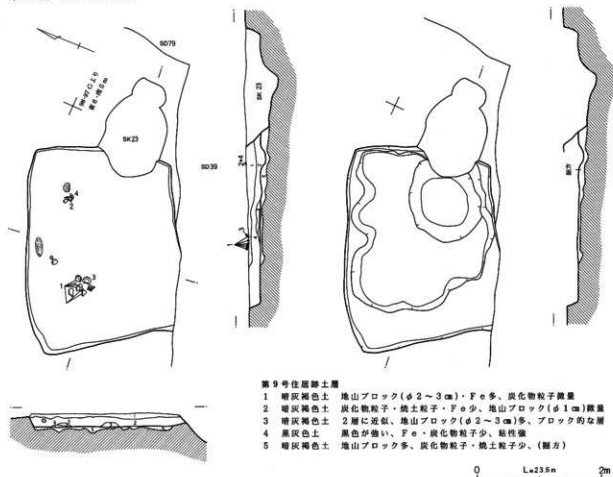
本住居跡は掘り方をもつ。掘り方は、中央よりやや東寄りを少し不整形に掘り下げるもので、カマド付近ではさらに土壇状に深く掘り窪めている。全体的に、掘り方内には凹凸が数多くみられる。

掘り方を、地山ブロックを多量、焼土粒子・炭化物粒子を少量混入する暗灰褐色土で埋め戻し、床面を構築していた。床面には、若干の硬化が認められた。

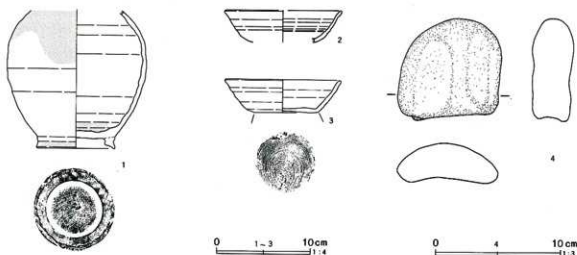
周壁溝・貯蔵穴などの施設は検出されなかった。

出土遺物は少なく、いずれも床面より浮いた状態で検出された。図化石得たのは計4点であった。

第354図 第9号住居跡



第355図 第9号住居跡出土遺物



第153表 第9号住居跡出土遺物観察表(第355図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	須恵長頸壺	—	14.6	8.4	DEG	普通	黒灰色	台100	ロクロ成形 底:回転糸切り離し後 高台貼付 自然軸付着
2	須恵器環	(12.6)	3.4	—	DEH	普通	緑灰色	口40	ロクロ成形
3	須恵器環	12.3	3.5	6.8	CEH	良	緑灰色	底100	ロクロ成形 R C

4は磨石であると思われる。灰褐色、安山岩製。表裏面の2面を磨面として使用していると思われるが、方向などの痕跡は不明確。周縁部に敲打痕がみられる。現存長・幅8.1cm・厚さ2.9cm、現存重量289.0gを測る。

第10号住居跡 (第356・357図)

99・100-99・100グリッドに位置する。S J 11・S D 116を切り、S D 75に切られる。

プランは、全体的に丸をもった長方形を呈する。長径×短径×深さは3.55×2.67×0.15mを測る。主軸方向はN-106°-Eを指す。

本住居跡は、S J 11と北壁・東壁の位置、主軸方向が一致しており、カマド位置も比較的近いといえる。そして、床面は本住居跡の方が、S J 11よりも10cm程度上位面に存在している。

これらの点から、本住居跡はS J 11を西側と南側に拡張する際に、カマドの付け替えや、床面の嵩上げが行われた住居跡であると推定される。

この場合本住居跡は、S J 11を西側に65cm、南側に

50cm拡張して、床面を10cm嵩上げし、カマドを50cm程南に付け替えたことになるといえる。

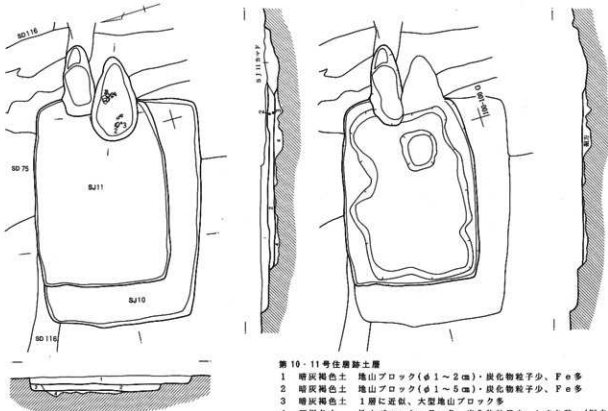
カマド1基が検出されている。カマドは北壁中央より、僅かに北寄りに設けられている。全長130cm・幅74cmを測る。4層は、2～4cm大の地山ブロックを多量に混入する暗灰褐色土で、カマド掘り方の埋め戻し土に相当しよう。2・3層は焚口部・燃焼部および、煙出し部に相当すると思われる。

焚口部は浅い土壌状に掘り窪められ、燃焼部も底面は浅い播鉢状を呈する。煙出し部とカマド側面は、比較的急勾配で立ち上がる。

カマド内部の焼け方はきわめて弱い状況であった。また、カマドの袖の痕跡は確認されていない。土師器と須恵器の破片が、カマド底面から浮いた状態で検出された。

本住居跡は掘り方をもっておらず、S J 11を1～5cm大の地山ブロックを多量に混入する暗灰褐色土で埋め戻して(2層)、床面を構築していると推定される。

第356図 第10・11号住居跡

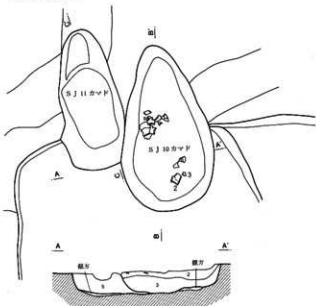


第10・11号住居跡土層

- 1 暗灰褐色土 地山ブロック(φ1~2cm)・炭化物粒子少、Fe多
- 2 暗灰褐色土 地山ブロック(φ1~5cm)・炭化物粒子少、Fe多
- 3 暗灰褐色土 1層に近似、大型地山ブロック多
- 4 灰褐色土 地山ブロック・Fe多、炭化物粒子少、しまり強、(縦方)

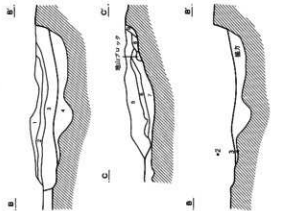
0 L=23.6m 2m

S J 10・11 カマド



第10号住居跡カマド

- 1 暗灰褐色土 地山ブロック・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子・Fe少
- 2 黒灰色土 焼土ブロック(φ1cm)多、黒炭が薄く帯状に入る
- 3 暗灰褐色土 地山ブロック(φ1~2cm)・焼土ブロック少、焼土粒子・炭化物粒子多
- 4 暗灰褐色土 地山ブロック(φ2~5cm)多、(縦方)

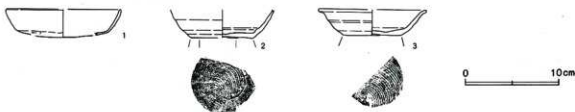


0 L=23.4m 1m

第11号住居跡カマド

- 5 暗灰褐色土 地山ブロック(φ0.5cm)多、焼土ブロック(φ1~2cm)・炭化物粒子少
- 6 黒灰褐色土 焼土ブロック(φ1~2cm)・炭化物粒子多、炭層
- 7 暗灰褐色土 灰色粘土ブロック・Fe少(縦方)
- 8 暗灰褐色土 灰色粘土ブロック多、Fe少
- 9 暗灰褐色土 5層に近似、焼土含まず

第357図 第10号住居跡出土遺物



第154表 第10号住居跡出土遺物観察表(第357図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	土師器環	(12.2)	2.7	—	AEH	普通	茶褐色	口25	器面風化 口:内外面横ナデ 体(外):莖削り(内):ナデか 床直
2	須恵器環	—	3.0	(6.6)	CEH	良	青灰色	底25	ロクロ成形 R B a カマド
3	須恵器環	(11.4)	2.7	6.2	BCE	普通	青灰色	底50	ロクロ成形 R C

周壁溝・貯蔵穴などの施設は検出されなかった。

遺物の出土は少なく、いずれもカマド内からの出土であった。図化した遺物は土師器1、須恵器環2の、計3点であった。

第11号住居跡 (第356図)

99-99・100グリッドに位置する。SD116を切り、S J10・SD75に切られる。土層断面の観察などから、本住居跡は、SD116を埋めて構築されていると思われる。

プランは全体的に丸味をもった長方形を呈する。長径×短径×深さは2.95×2.15×0.26mを測る。但し、深さについては確認面からではなく、S J10の床面からの深さである。主軸方向はN-106°-Eを測る。

本住居跡は、S J10と北壁・東壁の位置、主軸方向が一致しており、カマド位置も比較的近いといえる。そして、床面はS J10の方が、本住居跡よりも10cm程上位置に存在している。

これらの点から、S J10は本住居跡を西側と南側に拡張する際に、カマドの付け替えや、床面の嵩上げが行われた住居跡であると推定される。

この場合S J10は、本住居跡を西側に65cm、南側に50cm拡張して、床面を10cm嵩上げし、カマドを50cm程

南に付け替えたことになるといえよう。

カマド1基が検出されている。カマドは東壁中央より、北寄りに設けられている。全長108cm・幅53cmを測る。なお本住居跡のカマドは、焚口部の右側をS J10のカマドによって切られている。

7層は、灰色粘土ブロックを混入する暗灰褐色土で、カマド掘り方の埋め戻し土に相当しよう。2層は焚口部・燃焼部および、煙道部・煙出し部に相当すると思われる。1層は天井崩落土であろうか。

燃焼部は土塊状に掘り窪められ、20°程の勾配をもって煙道部へと続く。煙道部は段をもち、部分的に平坦面となって煙出し部に至り、急勾配に立ち上がる。

カマド内部には、焼土や炭化物がみられるものの、内面はほとんど焼けていない状況であった。

本住居跡は掘り方をもつ。掘り方は、壁面際を除く範囲を不整形に掘り下げるもので、床面からの深さは5~10cm程であった。またカマド近くの掘り方では、平面規模50×60cm、深さ10~15cm程の土塊状の掘り込みが検出された。

周壁溝・貯蔵穴などの施設は検出されなかった。

土師器環が1点出土したが、小破片であるため図化には至らなかった。

(2) 掘立柱建物跡

今回の調査で検出された掘立柱建物跡は、合わせて67棟であった。内訳は第14地点：43棟（64.2パーセント）、第15地点：9棟（13.4パーセント）、第16地点：15棟（22.4パーセント）である。

9棟のうちSB9を除いた8棟は、調査区北部に集中している。検出し得た範囲内では、掘立柱建物跡同士や住居跡との重複例はないと思われる。

SB9はこれらの掘立柱建物跡とはやや離れて位置する大型のもので、2×3軒で東側に庇をもつ。

そしてこのSB9を回り込むようにして道路状遺構

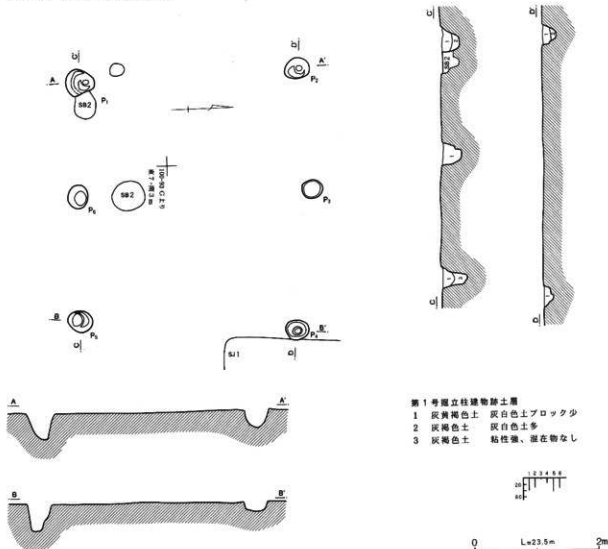
が検出された。両者は併存関係にあったと思われる。

第1号掘立柱建物跡（第358図）

100-93-94グリッドに位置する。第16地点で検出された掘立柱建物跡の中で、最西端に位置する。SB2を切っている。S J 1と僅かに重複しているが、新旧関係は不明である。

規模は1×2間であり、桁行は北側が4.2mで南側は3.8m・梁行3.5mを測る。柱間距離は、桁行で1.9mと2.2mであるが、概ね1.9m、梁行で3.5mを測る。桁行の規模が南北で異なるため、桁行と梁行は直角を呈しておらず、またP3は桁行線上から外（北）側にず

第358図 第1号掘立柱建物跡



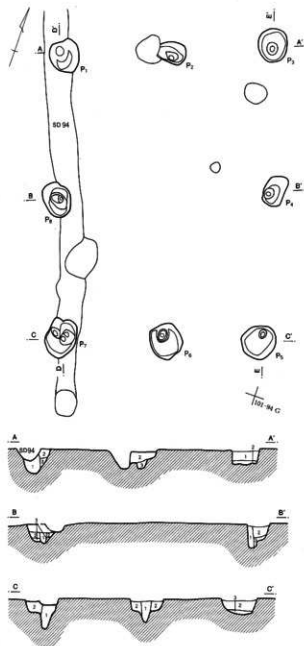
れている。全体的にプランはやや歪んでいる。主軸方向はN-88°-Wを指す。

柱穴は、40×30cm～45×40cmの円形もしくは楕円形を呈するものである。深度は20～45cmであるが、概ね30cm前後である。

柱穴の規模は比較的一定で、全体的に小規模であるといえる。柱痕は検出されなかった。

遺物は全く出土しなかった。

第359図 第2号掘立柱建物跡

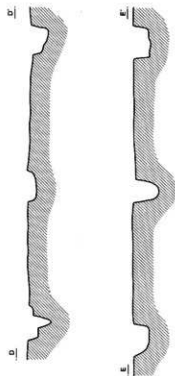


第2号掘立柱建物跡 (第359図)

100-101-93グリッドに位置する。S J 1とSD94に切られる。

規模は2×2間であり、桁行4.5m・梁行は北側3.4m、南側3.2mを測る。柱間距離は、桁行で2.3m、梁行で1.5～1.8mである。主軸方向はN-18°-Wを指す。

梁行に南北差がある他は、柱間距離も比較的一定しており、プランは整っている部類といえる。



第2号掘立柱建物跡土層

- 1 灰褐色土 灰白色粘土ブロック少
- 2 灰褐色土 灰黄褐色土ブロック多、しまり薄
- 3 灰褐色土 灰白色粘土ブロック少、しまり薄



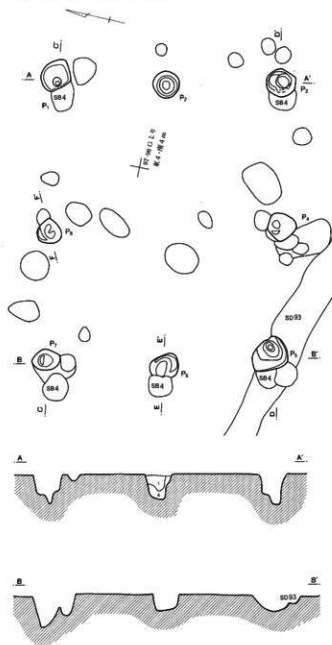
0 L=23.5m 2m

柱穴は、50×45cm程の円形を呈するものと、50×30cm程の長方形を呈するものが混在している。深度は30～50cmを測るが、概ね30～40cmである。柱穴の掘り方は小規模である。

P1・P4・P6～8の1層は柱底に相当すると思われる。柱底周囲の2・3層は、粘土ブロックを含む堅緻な充填土であった。

須恵器環の小破片が1点出土したが、図化には至らなかった。

第360図 第3号掘立柱建物跡

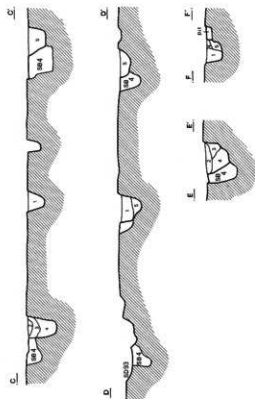


第3号掘立柱建物跡 (第360図)

97-96グリッドに位置する。SB4を切っており、SD93には切られていると思われる。多数のビットとも重複関係にあるが、新旧関係については不明である。

本遺構は、SB4と主軸方向や柱穴の位置がほとんど一致しており、SB4の建て替えと推定される。

規模は2×2間であり、桁行は北側4.4m・南側4.2m、梁行は3.6mを測る。柱間距離は、桁行で2.2～2.4m、梁行で1.7～1.9を測り、桁行・梁行ともにばらつ



第3号掘立柱建物跡土層

- 1 黒褐色土 地山ブロック・焼土粒子・炭化粒子少、粘質、しまり弱
- 2 灰褐色土 マンガン・地山粒子・焼土粒子・シルト質、しまり強
- 3 暗褐色土 地山ブロック多、粘質、しまり強
- 4 暗褐色土 地山ブロック多、粘質、しまり強
- 5 暗褐色土 地山ブロック多



きがある。主軸方向はN-80°-Eを指す。

梁行西側は柱穴の並びが悪く、桁行とも直角を呈しておらず、全体的にプランは歪みをもっている。

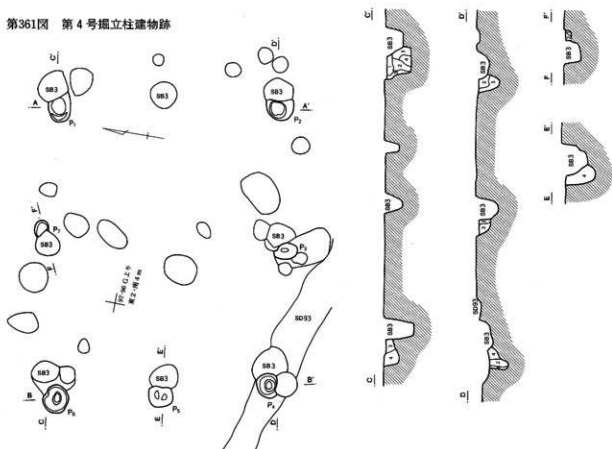
柱穴は、径40×40cm～50×45cmの円形もしくは楕円形を呈するものと、50×35cmの長方形を呈するものとが混在している。柱穴の深度は、30～50cm程であるが、概ね40cm前後である。P 8の1層は、柱痕に相当すると思われる。他の柱穴は、抜き取りであろうか。

遺物は全く出土しなかった。

第4号掘立柱建物跡 (第361図)

97-96グリッドに位置する。SB 3に切られており、SD93にも切られていると思われる。この他に多数のピットとも重複関係にあるが、新旧関係については不明である。SB 3は本遺構よりも新しいが、主軸方向やピットの位置関係がほとんど一致しており、本遺構からの建て替えであると思われる。主軸方向はN-79°-Eを指す。また、本遺構の柱穴周囲には、これら他にもピットが分布している。単独の掘立柱建物跡と

第361図 第4号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡土層

- 1 暗褐色土 地山ブロック少、しまり強
- 2 黒褐色土 地山ブロック・焼土焼子・炭化粒子少、粘質、しまり強
- 3 暗褐色土 地山ブロック多、粘質、しまり強
- 4 暗褐色土 地山ブロック多、粘質、しまり強



0 L=23.6m 2m

しては成立しないことからみて、本遺構そのものも建て替えが行われ、その後さらにSB3として別個の掘立柱建物として建て替えられたものと推定した。規模は2×2間であり、桁行は北側4.6m・南側4.4m、梁行は3.5mを測る。柱間距離は、1.9~2.7mと幅があり、梁行は1.7mである。P3は桁行線上から外(南側)に、P7は外(北)側にずれている。桁行南側かやや短いため、僅かではあるがプランは全体的に少し歪んでいる。柱穴は25×40cm~45×45cmの円形もしくは長方形を呈するもので、深度は30~60cmであるが、概ね30~40cmである。柱穴掘り方は小規模である。

遺物は全く出土しなかった。

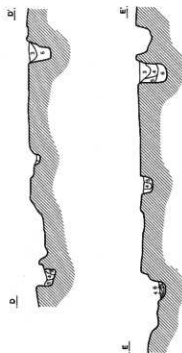
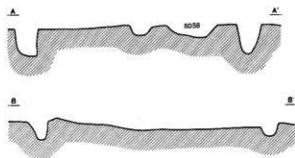
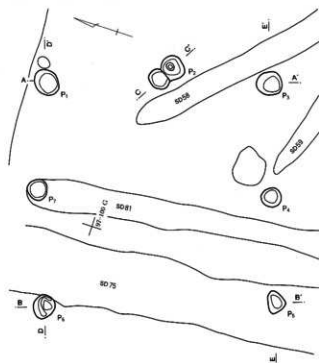
第5号掘立柱建物跡 (第362・365図)

96・97・99・100グリッドに位置する。4本の溝跡と重複関係にあるが、SD75・81に切られているが、SD58・59との新旧関係については不明である。

規模は2×2間であり、桁行は東側3.6m・西側3.7m、梁行は北側3.5m・南側3.4mを測る。

P2の位置には2本のビットがあり、切り合っているのがわかる。柱穴の掘り換えてであろうか、または本遺構とは別個のビットであろうか。位置関係からP2のうち、内(西)側のビットを本遺構の柱穴と推定した。また、P5~P6間のビットはSD75によって失われていると思われる。柱間距離は、桁行3.6m・梁行

第362図 第5号掘立柱建物跡



第5号掘立柱建物跡土層

- 1 暗褐色土 シルト質、しまり強
- 2 褐色土 シルト質、しまり強
- 3 灰褐色土 Mn・Fe少、シルト質、しまり強
- 4 暗褐色土 粘土粒子・地山粒子含む、粘質、しまり強
- 5 暗褐色土 地山ブロック含む、粘質、しまり強
- 6 褐色土 膠化した地山土、シルト質、しまり強

0 L=2.5m 2m

3.4mと一定しており、プランも比較的整っているといえる。主軸方向はN-73°-Eを指す。

柱穴は、直径25×35cm～40×40cmの円形もしくは楕円形を呈するもので、深度は20～50cmであるが、概ね30cm前後である。全体的に、柱穴の掘り方は小規模である。P4・5・6の1層は柱痕に相当すると思われる。ほかは抜き取りであろうか。柱底周囲の充填土は、地山ブロックを含む暗褐色土または灰褐色土であった。

土師器環の小破片が少数出土したが、図化し得たのは1点のみであった。

第6号掘立柱建物跡 (第363図)

101-101・102グリッドに位置する。SD7と重複関係にあるが新旧関係は不明である。

規模は、検出時点では2×2間であったが、柱穴の深度が浅く、すでに失われているピットがあるという現状では、これよりも規模が大きかった可能性も否定できない。とくに、P1の東側にピットがあった場合、SD7に切られたとも考えられよう。P1～P3の並びを桁行と推定した。桁行3.2m・梁行2.9mを測る。P3～P4間でもピットは検出されなかった。

柱間距離は、桁行でP1～P2間・P2～P3間で1.6m、P4～P5間で1.2mであった。P1～P3は柱間距離も等しく、柱穴の並びも比較的良好であるが、桁行西側のP4～P5間の柱間距離は、東側とは大きく異なっている。主軸方向はN-54°-Eを指す。

柱穴は15×20cm～30×35cmの、円形もしくは楕円形を呈するものであった。柱穴の深度は10～30cmである。

深度が浅いのは、柱穴の遺存度が悪いためでもあるが、それ以上に柱穴の掘り方がきわめて小規模であることに因るといえる。1層は柱痕と思われる。

遺物は全く出土しなかった。

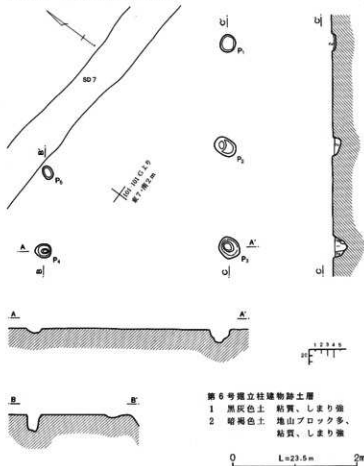
第7号掘立柱建物跡 (第364図)

101-101・102グリッドに位置する。遺構検出時点では、1本のピットと重複しているのみであったが、新旧関係については不明である。規模は、検出時点では2×2間であったが、柱穴の深度が浅く、すでに失われているピットがあるという現状では、これよりも規模が大きかった可能性も否定できない。P2～4方向で2.7m、P4・5・1方向で2.8mを測り、柱間距離はP2～P3間で1.5m、P3～P4間で1.2m、P4～P5間で1.4m、P5～P1間で1.3mであった。

現状からは、桁行・梁行の確定はできなかった。この柱穴列は直行するが直角を呈しておらず、115度に関き、遺存していた範囲だけを見ても、プランは大きく歪んでいる。主軸方向はN-49°-EまたはN-35°-Wを指すと思われる。

P4・P5の1層は、柱痕に相当すると思われる。

第363図 第6号掘立柱建物跡



充填土は、地山ブロックを含む暗褐色土であった。

柱穴は、25×30cm～30×35cmの円形もしくは楕円形を呈するもので、深度は5～20cmときわめて浅い。

遺物は全く出土しなかった。

第8号掘立柱建物跡 (第365・366図)

100-103グリッドに位置する。SD17に切られているほかに、重複関係はない。

規模は2×2間であり、桁行は3.0m、梁行は2.6mと2.8mを測る。柱間距離は、桁行で1.3mと1.7mというように一定しているが、梁行は1.2～1.6mと幅がある。柱穴は、梁行線上に比較的好く乗っているといえるが、桁行北側ではP8がやや外(北)側にずれている。また、梁行の規模に若干の差があることなどから、プランは全体的に歪んでいる。主軸方向はN-67°Eを指す。

柱穴は、直径25×25cm～45×50cmの円形もしくは長方形を呈するものが大部分であるが、北東のコーナー・ピット(P1)は30×50cmの長方形を呈するものである。なお、P5は10×15cmというきわめて小型の円形ピットであるが、SD17に切られたため、柱穴底面の柱痕の部分だけが遺存している状態であるためと考えられる。深度は10～30cmで、掘り方は小規模である。P2・P3・P8の1層は柱痕と思われる。

須恵器環の破片が1点出土をした。

第9号掘立柱建物跡 (第367図)

96-104・105グリッドに位置する。遺構の大部分は、調査区北側に続いている。SB10・SX5と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

プランについては、P1の東側にもう1間続くとしても、遺構の規模からみて、ピットは排水溝にまで達することはないと思われる。東西方

向については2間と判断した。

規模は、南北方向は1間を検出できたのみであり、東西規模は2間である。東西方向は梁行であろうか。

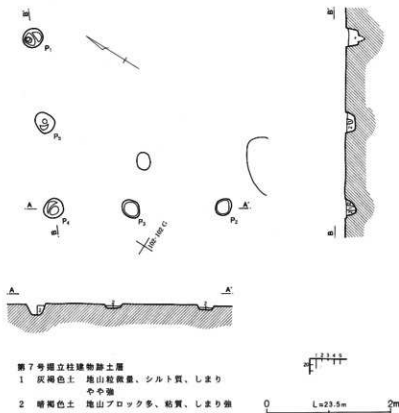
東西方向は3.0mであり、柱間距離はP1-P2間・P2-P3間ともに1.5m、南北方向は1.7を測る。主軸方向は、南北方向が主軸の場合N-15°W、東西方向が主軸の場合N-75°Eを指すことになる。

柱穴の並びは、東西方向と南北方向は直角を呈しておらず、検出範囲内ではプランは歪んでいるといえよう。柱穴は、直径30×40cm程の円形もしくは楕円形を呈するもので、深度は概ね40cm前後を測る。柱穴の掘り方は小規模である。

1・2層は柱痕に相当すると思われる。柱痕の周囲は、暗灰色または青灰色の堅緻な充填土であった。

遺物は全く出土しなかった。

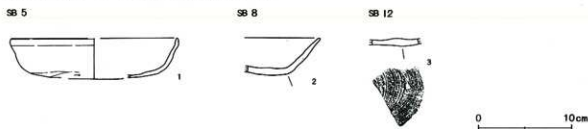
第364図 第7号掘立柱建物跡



第7号掘立柱建物跡土層

- 1 灰褐色土 地山程崩壊、シルト質、しまりやや強
- 2 暗褐色土 地山ブロック多、粘質、しまり強

第365図 第5・8・12号掘立柱建物跡出土遺物



第155表 第5・8・12号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第365図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	土師器甕	(13.5)	3.1	—	ACEF	普通	暗茶褐色	IJ25	口:内外面とも横ナデ 体(外):ナデか 底(外):寛削りか
2	須恵器杯	—	3.0	—	DEF	良	白灰色	—	ロクロ成形 底:回転削り(R) 器形歪む
3	須恵器杯	—	0.7	—	EH	普通	灰白色	—	ロクロ成形 底:回転未切り離し後 周辺削り

第10号掘立柱建物跡 (第369図)

96・97・104・105グリッドに位置する。SB 9・SX

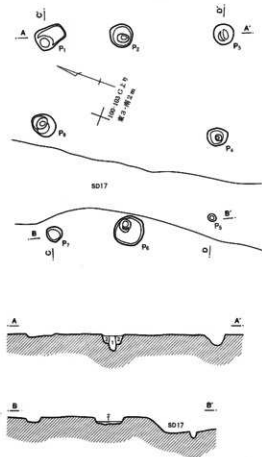
5と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。SB 9

とは、位置関係・軸方向からみて、建て替えの可能性が考えられる。

P 7・P 8の東側にピットは検出されなかったが、P 1深度から、すでに柱穴が失われている可能性を考えた。そのため、桁行東側に庇をもつ掘立柱建物跡であると判断した。

規模は、桁行(南北方向)は2間まで検出できたのみで5.2m、梁行は2間で4.3m、底部分まで含めて6.5mを測る。桁行については、もう1間調査範囲外に続く可能性が考えられる。柱間距離は、桁行では1.6~2.8mと幅があり、梁行では2.2mである。主軸方向はN-10°-Eを指す。

第366図 第8号掘立柱建物跡



第8号掘立柱建物跡土層
1 黒灰色土 粘質、しまり強
2 暗褐色土 池山ブロック多
粘質、しまり強

柱穴は、50×55cm～65～85cmの円形もしくは楕円形を呈するものと、55×85cm程の長方形を呈するものが混在している。深度は浅く、10～50cmであるが概ね30cm前後である。土層断面を観察しても柱痕は検出されず、抜き取りによるものと思われる。

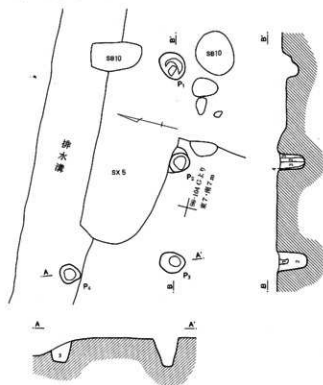
遺物は全く出土しなかった。

第11号掘立柱建物跡 (第368図)

96・97-108グリッドに位置する。今回の調査で検出された掘立柱建物跡の中で、最東端に位置する。

南北方向の柱穴列の西側には、本遺構に伴うと思われるピットが検出されていないため、プランは東側に続くと思われる。但し、各柱穴の深度がきわめて浅いことから、西側に存在したピットが既に失われてしまった可能性も否定できない。

第367図 第9号掘立柱建物跡



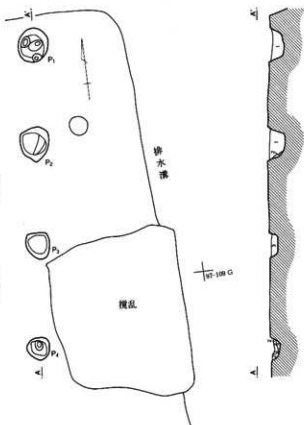
第9号掘立柱建物跡土層

- 1 灰白色土 炭化穀子・鉄分少、しまり強、粘性弱
- 2 暗白色土 鉄分多、しまり・粘性強
- 3 暗白色土 鉄分少、しまり・粘性強
- 4 青白色土 鉄分少、しまり・粘性強



0 L=22.4m 2m

第368図 第11号掘立柱建物跡



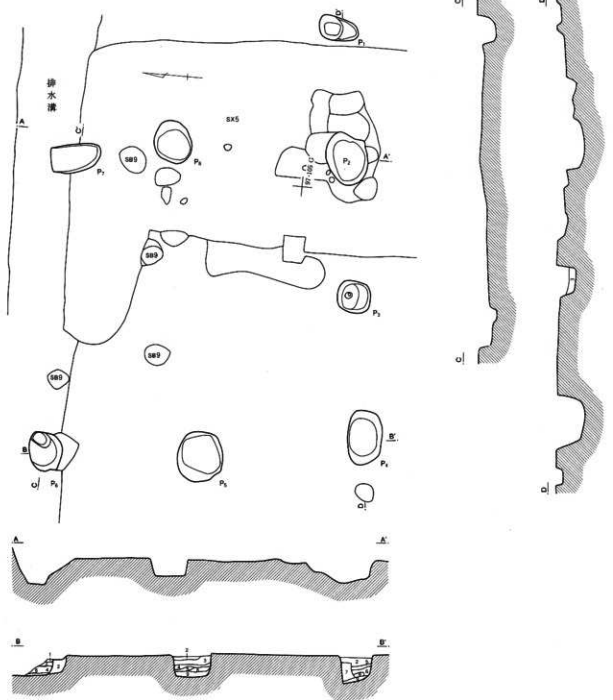
第11号掘立柱建物跡土層

- 1 暗褐色土 粘質・焼土粒子、地山炭屑粒子含む、しまりあり
- 2 暗褐色土 焼土粒子・地山ブロック含む、粘質
- 3 灰褐色土 酸化鉄含むシルト質・しまり弱



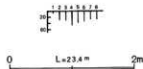
0 L=23.5m 2m

第369図 第10号掘立柱建物跡



第10号掘立柱建物跡土層

- | | | |
|---|-------|----------------------------------|
| 1 | 灰色土 | Fe少、しまり強・粘性弱 |
| 2 | 灰色土 | Fe多、しまり強・粘性弱 |
| 3 | 明青灰色土 | 明青灰色土ブロック(φ5cm)と灰色土の強土層、しまり強・粘性弱 |
| 4 | 灰色土 | 明青灰色土ブロック(φ1cm)少、しまり・粘性弱 |
| 5 | 明青灰色土 | 明青灰色土ブロック(φ3cm)と灰色土の強土層、しまり・粘性弱 |
| 6 | 明青灰色土 | しまり強 |
| 7 | 灰色土 | 灰色土ブロック(φ2~3cm)・Fe多、しまり弱、粘性若干 |
| 8 | 灰色土 | しまり・粘性強 |
| 9 | 明青灰色土 | しまり・粘性強 |

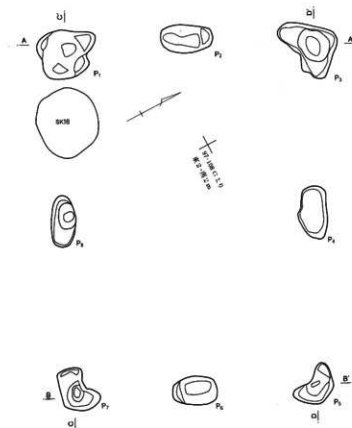


第12号掘立柱建物跡 (第370図)

96・97・107・108グリッドに位置する。SK14を切るが、SK18との新旧関係は不明である。

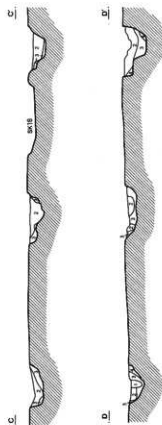
規模は、2×2間であり、桁行5.3m・梁行3.9mを測る。柱間距離は概ね一定しており、桁行2.7m・梁行1.9mである。桁行・梁行および各柱間の寸法はそれぞれ近似であり、プランは整っているといえよう。主軸方向はN-62°-Eを指す。

第370図 第12号掘立柱建物跡



柱穴は、各コーナー・ピットとも40×70cm前後の楕円状を呈し、それ以外のピットは40×80cm前後の長方形を呈するものである。深度は20~40cm程で、概ね30cm前後を測る。柱穴の掘り方は、比較的大きい部類に含まれる。

P2・P5の1層は柱痕と思われる。柱痕は、P2では柱穴底部に届いているが、P5では届いていない。後者の場合、柱痕と柱穴底面との間に、地山ブロック



第12号掘立柱建物跡土層

- 1 暗灰褐色土 粘質・しまりやや弱
- 2 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子微量、シルト質しまりあり
- 3 暗褐色土 地山ブロック多、焼土粒子少、シルト質、しまりあり
- 4 灰白色土 暗褐色土少、シルト質、しまり弱



0 L=23.4m 2m

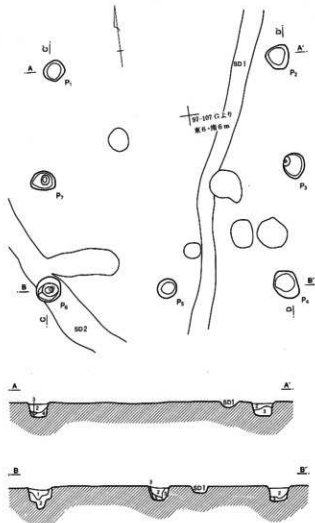
を含む堅緻な暗褐色土が充填されていた。これ以外のピットでは、柱は抜き取られていると思われる。

土師器や須恵器の小破片が僅かに出土しているが、図化し得たのは、須恵器坏の小破片1点のみであった。
第13号掘立柱建物跡 (第371図)

97-107グリッドに位置する。SD1・2および5本のピットと重複関係にあるが、新旧関係については不明である。

規模は、検出時点においては2×2間である。さらに北側にもう1間続く可能性と、P1-P2間にピットが存在する可能性とを想定して精査を行ったが、これ以上にピットは検出されなかった。本遺構についても他の掘立柱建物跡と同様にピットの遺存度が悪く、

第371図 第13号掘立柱建物跡

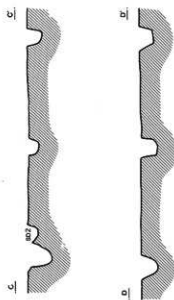


すでに失われている場合も否定できない。2×3間の可能性もあるが、現状における規模は2×2間で東西3.6mと3.8m、南北は3.4mと3.6mを測る。

P3・P7は、柱穴列線上から外側にずれており、柱穴の南北列同士も平行していない。プランはやや歪んでいる。主軸方向はN-5°Eを指す。

柱穴は、直径30×30cm～40×50cmの円形もしくは長方形を呈し、深度は15～35cmであるが、概ね20～30cmである。柱穴の掘り方は小規模である。P6に僅かに観察される1層が柱底と思われるが、抜き取りされているのであろうか。

遺物は全く出土しなかった。



第13号掘立柱建物跡土層

- 1 暗灰色土 鉄分多、白色粒子少、しまり強・粘性強
- 2 暗灰色土 鉄分少、砂粒ブロック(約0.5cm)少、しまり・粘性強
- 3 明青灰色土 鉄分多、暗灰色土ブロック状少、しまり・粘性強
- 4 明青灰色土 鉄分少、しまり・粘性強
- 5 明灰色土 キメ細かく滑らかな砂層、しまり・粘性中強



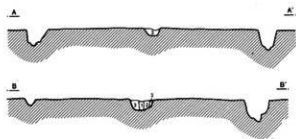
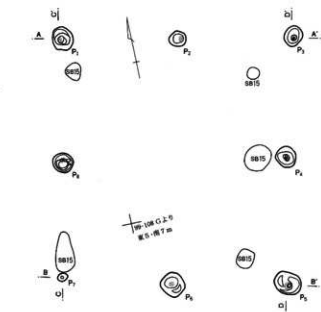
第14号掘立柱建物跡 (第372図)

99-88グリッドに位置する。SB15と重複する。新旧関係は不明であるが、両者の主軸方向はほぼ等しく、規模については、本遺構が一回り大きい。本遺構はSB15の建て替えてあろうか。

8本の柱穴の内、7本で柱痕を検出できた。建物の規模は2×2間で、桁行は3.7mと3.9m・梁行は3.7mと3.6mを測り、数値は比較的近似である。P4が位置的にやや北に偏っているほかは、比較的柱痕の並びは良好で、プランは整っている。

柱間距離は、桁行でP3-P4間：1.9m・P4-P5間：2.0m・P7-P8間：1.8m・P8-P1間：1.9m、梁行でP1-P2間：1.9m・P2-P3間：1.8m・P5-P6間：1.9m・P6-P7間：1.8mを

第372図 第14号掘立柱建物跡



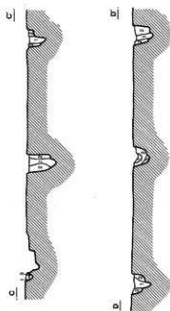
測る。なお、柱間距離は、P7-P8間以外はすべて芯々の数値である。主軸方向はN-12°-Eを指す。

柱穴は、10×15cm～35×45cmの円形もしくは楕円形を呈するもので、深度は10～50cm程であるが、概ね30cm前後である。全体的に、柱穴の掘り方は小規模であるといえる。

P4は、梁行東側線上からやや内(西)側にずれているほかは柱穴の並びも良く、プランも整っている。

1層は柱痕と思われる。柱痕には、柱穴底面に届くものと、届かないもの(P2・4・7)があるが、後者の場合、地山ブロックを含む堅緻な明褐色土が充填されていた。柱痕は、焼土粒子を混入する締まりの弱い、暗褐色の粘質土であった。

遺物は全く出土しなかった。



第14号掘立柱建物跡土層

- 1 暗褐色土 焼土粒子豊富、粘質・しまりやや弱
- 2 暗褐色土 地山粒子・地山ブロック少、粘質・しまり強
- 3 明褐色土 地山の土・暗褐色土少、シルト質、しまり弱



0 L=23.4m 2m

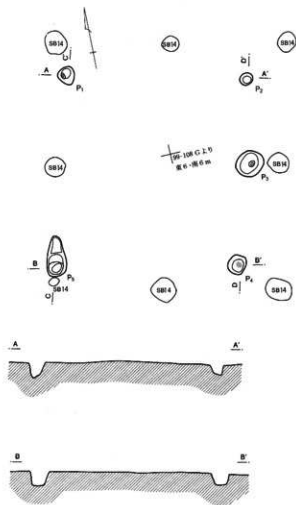
第15号掘立柱建物跡 (第373図)

99-108グリッドに位置する。SB14と重複する。SB14とは主軸方向もほぼ等しく、規模は一回り小さい。また、両者は桁行西側で同一線上に乗っている。SB15は本遺構の建て替えであろうか。平面上に柱痕を検出できたのは1本で、直径は約10×10cmであった。

P1-P5間に存在するピットは、SB14の柱穴と判断したが、桁行西側のラインがほぼ共通であることから、本遺構との共有であろうか。

規模は1×2間であり、桁行3.0m・梁行2.9mを測り、柱間距離は桁行で1.3mと1.6mであるが、梁行は2.9mであった。梁行は2間分の規模をもつが、ピットは検出されなかった。P3は、桁行線上から外(東)側にずれているほか、桁行の規模にも若干の違いがある

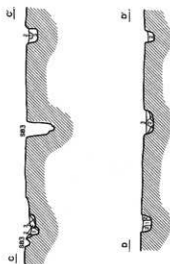
第373図 第15号掘立柱建物跡



ことから、プランはやや歪んでいる。主軸方向はN-15°-Eを指す。

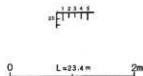
柱穴は、直径20×20cm～40×45cmの円形もしくは楕円形を呈するものと、南西のコーナー・ピットであるP5のように30×65cmの長方形を呈するものとが混在している。深度は20cm前後とごく浅い。これは遺構の遺存度が悪いのに加えて、柱穴の掘り方が小規模なことによるものと思われる。1層は、柱痕に相当すると思われるが、ともに柱穴底面にまで届くものである。柱痕周囲の充填土は、地山ブロックを含む堅固な、暗褐色土または褐色土であった。柱穴の深度が浅く、本来の掘り方が不明瞭であるものの、柱痕のみられないピットは柱の抜き取りによるものであろうか。

遺物は全く出土しなかった。



第15号掘立柱建物跡土層

- 1 暗褐色土 焼土粒子微量、粘質・しまりやや弱
- 2 暗褐色土 地山粒子・地山ブロック少
- 3 明褐色土 地山・暗褐色土少、シルト質、しまり強



(3) 柵列跡

第16地点で検出された柵列跡、もしくは柵列跡と思われる遺構は2基であった。柵列跡とした根拠はきわめて弱く、柱穴列が一方のみであること、しかも掘り方がごく小規模で、掘立柱建物跡とするには積極的になれない遺構を柵列跡として扱った。

第1号柵列跡 (第374図)

97-93グリッドに位置する。今回の調査で検出された中で、最も北に位置する柵列跡である。他の遺構との重複関係はみられない。柵列跡・掘立柱建物跡、両方の可能性を想定して周辺の遺構確認を繰り返したが、この他の柱穴は検出されなかった。この2間分で規模は3.3m、柱間距離は1.7mと1.6mである。主軸方向はN-86°-Wを指す。本遺構は、調査区境界線の南約1mに位置するが、柱間距離は1.6mと1.7mである。この点から、さらに北側に続く掘立柱建物跡の可能性も否定できない。柱穴の規模は概ね30×30cmの円

形または楕円形を呈し、深度はそれぞれ30cm・15cm・35cmと比較的浅い。2層は埋め戻し土と思われる。

柱痕は検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

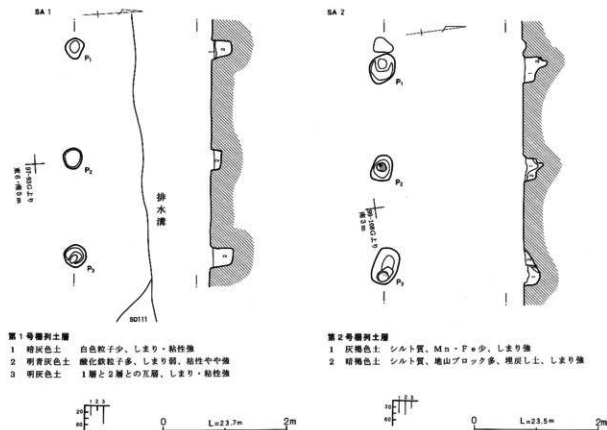
第2号柵列跡 (第374図)

99-107・108グリッドに位置する。今回の調査で検出された中で、最も東に位置する柵列跡である。他の遺構との新旧関係はない。柵列跡・掘立柱建物跡、両方の可能性を想定して周辺の遺構確認を繰り返したが、この東西2間分以外の柱穴は検出されなかった。この2間分で規模は3.3m、柱間距離は1.6mである。主軸方向はN-84°-Wを指す。柱穴の規模は不均等で30×40cm~40×60cmの円形もしくは長楕円形を呈する。深度は20~40cmと他の柵列跡と較べれば、比較的深いといえよう。

柱痕を2箇所検出できた。径は10~15cmを測る。

遺物は出土しなかった。

第374図 第1・2号柵列跡



(4) 土 壤

今回の発掘調査で検出された土壌は、第14地点：78基、第15地点：28基、第16地点：48基の計154基であった。各地点の土壌数の比率は、第14地点：51パーセント、第15地点：18パーセント、第16地点：31パーセントである。

全体的に各土壌からの出土遺物は少なく、図化し得る遺物が出土した土壌はさらに少数であった。

なお、ここで土壌として扱った中には、ビットとした方が良いと思われるもの、あるいは1基の土壌として数えたが、複数の土壌が存在している可能性をもつ遺構も存在する。さらに、遺構ではなく窪み状の微地形である可能性をもつ例も少なからず存在する。しかし、これらについても敢えてそのままとした。

以下、順を追って記述していくこととする。

括弧()付の数値は、推定値または現状における法量を意味する。

第1号土壌 (第375図)

97-91-92グリッドから検出した。今回の調査で検出された土壌のうちで、最も北西に位置する土壌である。規模は85×75×11cm。平面形状は円形を呈す。土師器の小破片が少数出土したが、図化には至らなかった。

第2号土壌 (第375図)

97-98-92グリッドから検出した。ビットに切られている。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。規模は205×150×19cm。主軸方向はN-24°-Wを指す。平面形状は楕円形を呈す。土師器と須恵器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

第3号土壌 (第375図)

97-93グリッドから検出した。形状からみて、土壌とビットが1基づつ重複している可能性が高い。規模は187×129×8cm。平面形状は不整形を呈す。遺物は出土しなかった。

第4号土壌 (第375図)

97-101-102グリッドから検出した。SD38との新旧関係は不明。規模は112×88×16cm。主軸方向はN-4°

-Eを指す。平面形状は円形を呈す。土師器環の小破片が少数出土したが、図化には至らなかった。

第5号土壌 (第375図)

96-102グリッドから検出した。規模は99×75×4cm。主軸方向はN-90°-Eを指す。平面形状は略長方形を呈す。遺物は出土しなかった。

第6号土壌 (第375図)

92-102-103グリッドから検出した。規模は142×97×23cmであった。主軸方向はN-90°-Eを指す。平面形状は長方形を呈す。遺物は出土しなかった。

第7号土壌 (第375・379図)

96-103グリッドから検出した。形状からみて単独の土壌ではなく、ビットなどが重複している可能性が高い。調査のために掘削した排水溝によって切られているため、全体の形状や規模は不明。現状での規模は175×(150)×18cm。平面形状は不整形を呈す。須恵器環1点が出土した。

第8号土壌 (第375図)

97-104グリッドから検出した。SD19との新旧関係は不明。規模は89×61×23cm。主軸方向はN-16°-Eを指す。平面形状は楕円形を呈す。遺物は出土しなかった。

第9号土壌 (第375図)

97-103グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。SD5との新旧関係は不明。全体の形状や規模は不明。現状での規模は112×-×16cm。平面形状は不整形を呈す。遺物は出土しなかった。

第10号土壌 (第375図)

97-103グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。SD5との新旧関係は不明。全体の形状や規模は不明。現状での規模は218×-×7cm。平面形状は不整形を呈す。遺物は出土しなかった。

第11号土壌 (第375・379図)

96-97-104グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌とし

て扱った。幾つかのピットと重複しているが、いずれについても新旧関係は不明。規模は372×195×22cm。主軸方向はN-7°-Eを指す。平面形状は不整形を呈す。土師器の小破片が少数出土したが、図化には至らなかった。

第12号土壇 (第376図)

97-107グリッドから検出した。規模は185×49×7cm。主軸方向はN-9°-Eを指す。平面形状は略長方形を呈す。土師器の小破片が少数出土したが、図化には至らなかった。

第13号土壇 (第376・379図)

97-107グリッドから検出した。規模は200×51×8cm。主軸方向はN-11°-Eを指す。平面形状は略長方形を呈す。図化し得た遺物は2点であった。

第14号土壇 (第376図)

97-107・108グリッドから検出した。SD1との新旧関係は不明。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壇として扱った。規模は180×81×11cm。主軸方向はN-85°-Eを指す。平面形状は不整形を呈す。土師器の小破片のほか、須恵器坏底部2点が出土した。1点は周辺へラ削りで、もう1点は回転糸切り離しによるものであった。いずれも小破片であるため、図化には至らなかった。

第15号土壇 (第376図)

97-107グリッドから検出した。規模は110×85×12cm。主軸方向はN-65°-Wを指す。平面形状は楕円形を呈す。遺物は出土しなかった。

第16号土壇 (第376図)

97-98-108グリッドから検出した。規模は227×48×8cm。主軸方向はN-9°-Eを指す。平面形状は略長方形を呈す。遺物は出土しなかった。

第17号土壇 (第376・379図)

97-108グリッドから検出した。規模は121×115×11cm。平面形状は円形を呈す。図化し得た遺物は3点であった。

第18号土壇 (第376図)

97-108グリッドから検出した。SB12との新旧関係

は不明。規模は117×100×10cm。平面形状は楕円形を呈す。土師器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

第19号土壇 (第376・379図)

99-91グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壇として扱った。SD100との新旧関係は不明。調査のために掘削した排水溝によって切られているため、全体の形状と規模は不明。現状での規模は220×(90)×24cm。図化し得た遺物は1点であった。

第20号土壇 (第376図)

98-91・92グリッドから検出した。規模は123×98×24cm。主軸方向はN-20°-Eを指す。平面形状は楕円形を呈す。遺物は出土しなかった。

第21号土壇 (第376図)

99-91・92グリッドから検出した。SD99・100との新旧関係は不明。規模は277×174×24cm。主軸方向はN-82°-Eを指す。平面形状は楕円形を呈すると思われる。

第22号土壇 (第376図)

99-91・92グリッドから検出した。土壇の規模は253×228×25cm。平面形状は円形を呈す。遺物は出土しなかった。

第23号土壇 (第377・380図)

97-98-92グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壇として扱った。SD94を切っていると思われる。規模は228×130×20cm。主軸方向はN-90°-Eを指す。平面形状は略長方形を呈す。図化し得た遺物は1点であった。

第24号土壇 (第377図)

99-94グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壇として扱った。ピットと重複している可能性がある。SD105に切られている。規模は173×(70)×10cm。土師器・須恵器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

第25号土壌 (第377図)

98-99-94グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。SD108との新旧関係は不明。規模は256×55×10cm。主軸方向はNを指す。平面形状は略長方形を呈す。遺物は出土しなかった。

第26号土壌 (第377図)

97-98-95グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。SD109との新旧関係は不明。規模は241×178×11cm。主軸方向はN-46°-Wを指す。平面形状は不整形を呈す。遺物は出土しなかった。

第27号土壌 (第377図)

98-95グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。SD95に切られている。規模は100×48×13cm。主軸方向はN-30°-Wを指す。長平面形状は楕円形を呈す。土師器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

第28号土壌 (第377図)

98-95-96グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。SD109との新旧関係は不明。規模は82×73×8cm。主軸方向はN-43°-Wを指す。平面形状は不整形長方形を呈す。土師器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

第29号土壌 (第377図)

98-95グリッドから検出した。ピットとの重複関係にあるが、新旧関係は不明であり、またSD109との新旧関係についても不明である。規模は116×(120)×18cm。主軸方向はN-70°-Eを指すと思われる。平面形状は楕円形を呈すと思われる。

第30号土壌 (第377・380図)

98-96グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。SD30との新旧関係は不明。規模は103×-×6cmであった。平面形状は不整形を呈す。図化し得たの

は土師器甕1点のみであるが、この他に須恵器環の小破片1点が出土した。

第31号土壌 (第377図)

98-96グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。SD110との新旧関係は不明。規模は272×(110)×17cm。土師器甕、須恵器蓋・環の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

第32号土壌 (第377図)

第32号土壌は、98-97グリッドから検出した。SJ8・9を切っている。規模は158×100×(53)cm。平面形状は不整形を呈す。土師器、須恵器環・甕の小破片が出土したが、いずれも図化には至らなかった。

第33号土壌 (第377図)

98-99グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。規模は138×45×17cm。主軸方向はN-46°-Wを指す。平面形状は略長方形を呈す。遺物は出土しなかった。

第34号土壌 (第377図)

98-99グリッドから検出した。SD75に切られている。規模は170×190×13cm。主軸方向はN-43°-Wを指す。平面形状は楕円形を呈す。土師器環の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

第35号土壌 (第377図)

99-102グリッドから検出した。2基のピットが重複している可能性が高いと思われる。規模は96×50×23cmであった。主軸方向はN-36°-Eを指す。平面形状は略長方形を呈す。遺物は出土しなかった。

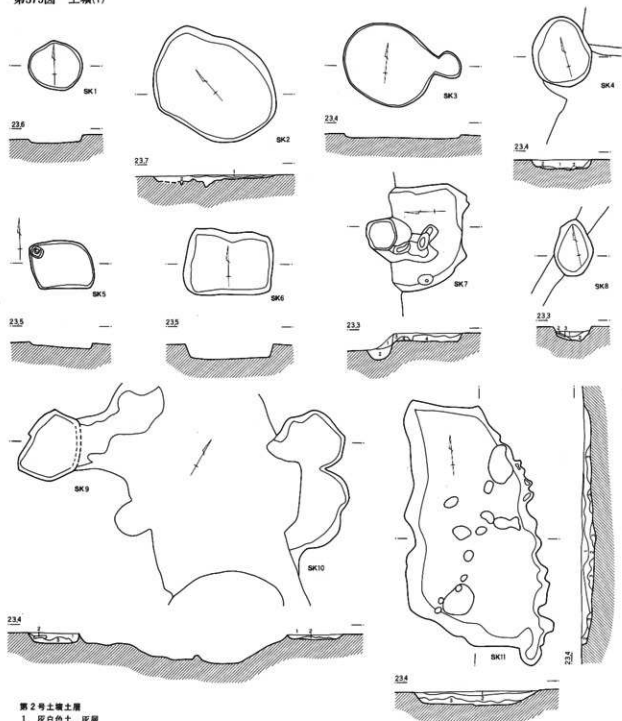
第36号土壌 (第377図)

99-102グリッドから検出した。SD51との新旧関係は不明。規模は160×70×4cmであった。主軸方向はNを指す。平面形状は略長方形を呈す。遺物は出土しなかった。

第37号土壌 (第377・380図)

99-102・103グリッドから検出した。SD17との新旧関係は不明。規模は144×130×23cm。主軸方向はN

第375図 土壌(1)



第2号土壌土層

1 灰白色土 灰層

2 黒褐色土 Mn少、焼土粒子・炭化物粒子若干、シルト質

第4号土壌土層

1 暗褐色土 シルト質、焼土粒子・炭化物粒子・地山粒子少

2 暗褐色土 シルト質、地山粒子・地山ブロック若干

第7号土壌土層

1 暗褐色土 粘質土、地山粒子少、均質

2 暗灰色土 粘質土・地山ブロック多

3 灰褐色土 粘質土・炭化物粒子少

4 明褐色土 シルト質・鉄分・地山ブロック少

第8号土壌土層

1 黒褐色土 地山ブロック・炭化物・灰・焼土粒子若干

2 暗灰色土 粘質土

3 明褐色土 シルト質、地山ブロック少

第9号土壌土層

1 黒褐色土 シルト質、焼土粒子・炭化物粒子多

2 黒色土 炭層、焼土粒子・焼土ブロック・灰若干

3 暗褐色土 シルト質、炭化物粒子・地山ブロック多

第10号土壌土層

1 暗灰褐色土 シルト質、酸化鉄・Mn若干、汚れている

2 褐色土 シルト質、地山土、酸化鉄・Mn若干

第11号土壌土層

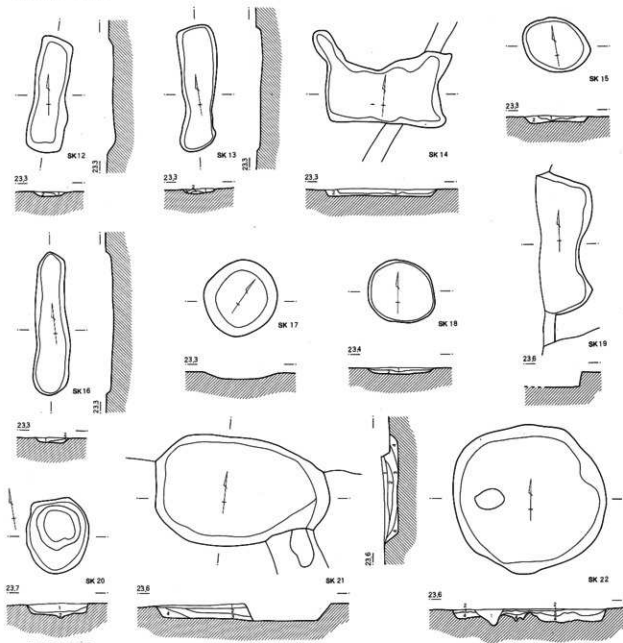
1 黒褐色土 シルト質、炭化物・焼土粒子・灰若干

2 暗褐色土 シルト質、地山ブロック・焼土粒子少

3 明褐色土 シルト質、地山ブロック多

0 2m

第376図 土壇(2)



第12号土壇土層

- 1 暗褐色土 砂粒子・鉄分少
- 2 暗黄褐色土 砂粒子多、鉄分少

第13号土壇土層

- 1 黒褐色土 砂粒子少
- 2 暗褐色土 砂粒子多、鉄分少

第14号土壇土層

- 1 暗褐色土 炭化物粒子・鉄分少
- 2 暗黄褐色土 砂粒子多、鉄分少

第15号土壇土層

- 1 黒色土 焼土粒子・炭化物粒子少
- 2 暗茶褐色土 砂粒子・鉄分若干

第16号土壇土層

- 1 黒褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少、粘土粒子若干
- 2 暗灰褐色土 粘土ブロック多、炭化物粒子少

第18号土壇土層

- 1 暗褐色土 砂粒子・鉄分少
- 2 暗黄褐色土 砂粒子多、鉄分少

第20号土壇土層

- 1 灰褐色土 粘質土、Mn少、洗滌石礫層
- 2 黒灰色土 灰と炭の混合層、焼土ブロック少

第21号土壇土層

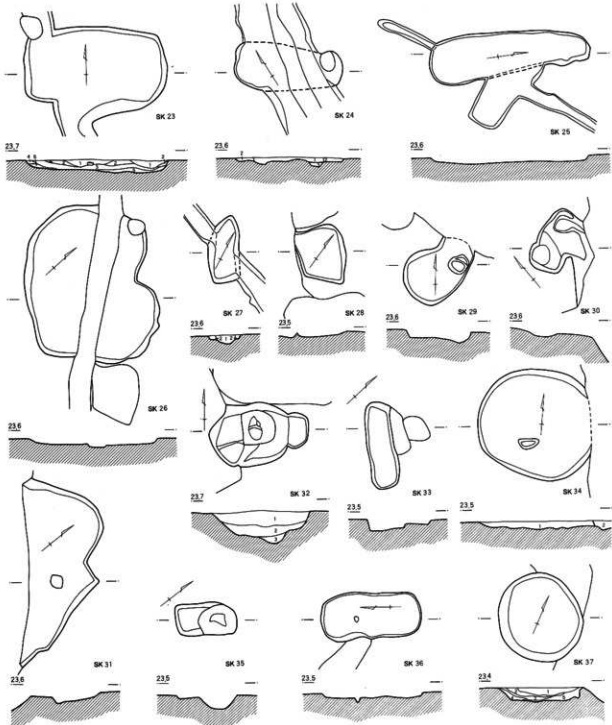
- 1 灰黄褐色土 炭化物粒子若干
- 2 灰黄褐色土 炭化物粒子多
- 3 灰黄褐色土 混入物なし、鉄分多
- 4 黒色土 3層に近似するが、鉄分少

第22号土壇土層

- 1 暗褐色土 シルト質、Mn少、地山ブロック多、ビット埋土
- 2 黒褐色土 灰と炭の混合層中に焼土粒子若干
- 3 黒褐色土 シルト質、炭化物粒子・焼土粒子少
- 4 暗褐色土 シルト質、Mn・酸化鉄・地山ブロック(φ2~3cm)多、埋戻土

0 2m

第377図 土塊(3)



第 23 号土塊土層

- 1 灰黄褐色土 鉄分多、焼土粒子微量
- 2 褐色土 焼土ブロック少
- 3 灰白色土 灰層中に焼土粒子若干
- 4 灰黄褐色土 焼土粒子微量
- 5 黄褐色土 黄灰白色土ブロック若干

第 24 号土塊土層

- 1 第 105 号遺層土
- 2 灰黄褐色土 灰黄褐色土ブロック若干
- 3 第 106 号遺層土

第 27 号土塊土層

1 第 95 号遺層土

- 2 褐色土 灰白色土小ブロック少

第 32 号土塊土層

- 1 暗灰褐色土 炭化物、地山・焼土ブロック、焼土粒子少、鉄分多
- 2 暗灰色土 青白色・粘土ブロック・鉄分多、焼土粒子少
- 3 灰色土 粘土ブロック少

第 34 号土塊土層

- 1 暗褐色土 焼土粒子少、しまり弱、粘性弱

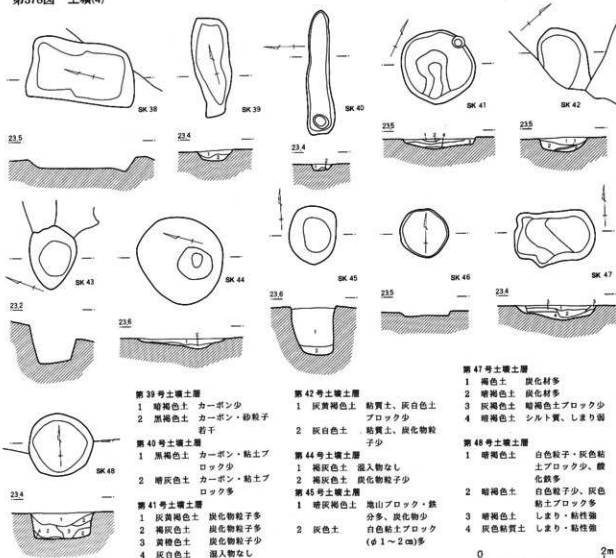
2 第 75 号遺層土

第 37 号土塊土層

- 1 灰褐色土 シルト質、Mn・灰・焼土粒子・炭化物粒子少
- 2 灰黄色土 焼土粒子・炭化物ブロック
- 3 灰色土 炭化物ブロック少
- 4 暗灰色土 炭化物・地山ブロック少
- 5 灰色土 炭化粒子・地山ブロック少

0 2m

第378図 土壌(4)



—54°—Wを指す。平面形状は円形を呈す。図化した遺物は2点であった。

第38号土壌 (第378図)

98-99-106グリッドから検出した。SD35との新旧関係は不明。規模は166×95×22cmであった。主軸方向はN-14°-Wを指す。平面形状は略長方形を呈す。遺物は出土しなかった。

第39号土壌 (第378図)

98-107グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌として扱った。SD1との新旧関係は不明。規模は157×57×16cm。主軸方向はN-14°-Eを指す。平面形状は略長

方形を呈す。遺物は出土しなかった。

第40号土壌 (第378図)

98-108グリッドから検出した。規模は198×32×10cm。主軸方向はN-88°-Wを指す。平面形状は略長方形を呈す。土師器の小破片が少数出土したが、図化には至らなかった。

第41号土壌 (第378図)

100-93グリッドから検出した。規模は122×115×16cm。平面形状は円形を呈す。遺物は出土しなかった。

第42号土壌 (第378図)

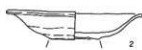
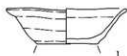
101-93グリッドから検出した。SD99-112との新旧関係は不明。規模は91(95)×22cm。主軸方向はN

第379図 第7・11・13・17号土壇出土遺物

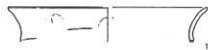
SK 7



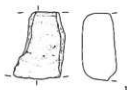
SK 13



SK 17



SK 11



0 10cm 1:4

0 SK 11-1 5cm 1:3

第11号土壇出土遺物は石皿であろうか。灰褐色、安山岩製。両端部と下面を欠損する。表面には磨面として

使用した痕跡がみられるが、方向などは全体的に不明瞭である。9.6×6.8×5.0cm、468.0gを測る。

第156表 第7号土壇出土遺物観察表(第379図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	須恵器環	—	1.9	6.8	EH	良	青灰色	底90	ロクロ成形 R B b	

第157表 第13号土壇出土遺物観察表(第379図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	須恵器環	12.9	3.8	6.6	BEH	普通	暗青灰色	底100	ロクロ成形 R C	器形歪む
2	須恵器皿	14.6	3.0	5.3	BEH	普通	灰青色	口100	ロクロ成形 R C	器形歪む

第158表 第17号土壇出土遺物観察表(第379図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	土師器甕	(21.4)	3.8	—	ACEF	普通	橙褐色	口15	口:内外面とも横ナテ	
2	土師器甕	—	6.0	4.2	ACEF	普通	明茶褐色	底80	胴~底(外):寛削り(内):歪ナテ	外面スス付着
3	須恵長頸壺	7.7	8.8	—	DE	良	薄緑灰色	口75	ロクロ水挽き成形	自然輪付着

第380図 第23・30・37・45号土壌出土遺物

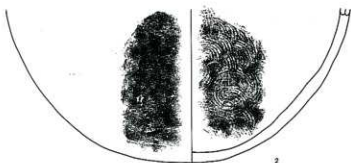
SK 23



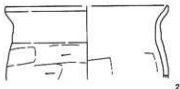
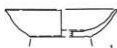
SK 37



SK 30



SK 45



0 10cm

第160表 第23号土壌出土遺物観察表(第380図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	土師器杯	(15.2)	2.5	—	AEH	不良	灰褐色	口25	ロクロ成形	

第161表 第30号土壌出土遺物観察表(第380図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	土師器甕	—	4.8	(5.2)	AEFH	普通	暗茶褐色	底45	胴~底(外):篋削り(内):篋ナテ 外面スス付着	

第162表 第37号土壌出土遺物観察表(第380図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	土師台付甕	—	4.4	—	AEF	普通	暗茶褐色	—	胴(外):篋削りか(内):篋ナテ 器面風化 外面スス付着	
2	須恵器甕	—	16.3	—	EH	普通	白灰色	—	(外):格子目状タキ後備目状工具による調陶	

第163表 第45号土壌出土遺物観察表(第380図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	土師器杯	(12.0)	3.0	(6.3)	ABE	不良	明茶褐色	底35	ロクロ成形 RC	
2	土師器	(17.4)	7.8	—	ACE	普通	黄橙色	口25	口:内外面とも横ナテ 胴(外):篋削り(内):篋ナテ	

一70°-Eを指すと思われる。平面形状は楕円形を呈すると思われる。遺物は出土しなかった。

第43号土壌 (第378図)

101-93グリッドから検出した。SD104との新旧関係は不明。規模は102×72×62cm。主軸方向はN-75°

一Eを指す。平面形状は楕円形を呈す。遺物は出土しなかった。

第44号土壌 (第378図)

101-94グリッドから検出した。規模は140×127×16cm。平面形状は楕円形を呈す。遺物は出土しなかった。

第45号土壌 (第378・380図)

100-95グリッドから検出した。規模は92×74×78cm。主軸方向はNを指す。平面形状は楕円形を呈す。図化し得た遺物は2点であった。

第46号土壌 (第378図)

100-103グリッドから検出した。土壌の規模は78×73×8cm。平面形状は円形を呈す。遺物は出土しなかった。

第47号土壌 (第378図)

101-105・106グリッドから検出した。遺構ではなく、窪み状の微地形の可能性が高いが、取りあえず土壌と

して扱った。SD7との新旧関係は不明。規模は128×78×23cm。主軸方向はN-87°-Wを指す。平面形状は不整形を呈す。遺物は出土しなかった。

第48号土壌 (第378図)

101-107グリッドから検出した。調査のために掘削した排水溝によって切られているが、全体の形状や規模は得ることができた。規模は102×100×40cm。平面形状は円形を呈す。遺物は出土しなかった。

第164表 16地点土壌一覧表(第375～378図)

番号	旧番	検出グリッド	平面形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方向	備 考
1	30	97-91-92	円形	0.85	0.75	0.11	—	
2	28	97-98-92	楕円形	2.05	1.50	0.19	N-24°-W	
3	33	97-93	不整形	1.87	1.29	0.08	—	
4	18	97-101-102	楕円形	1.12	0.88	0.16	N-4°-E	SD38
5	17	96-102	略長方形	0.99	0.75	0.04	N-90°-E	
6	16	96-102-103	略長方形	1.42	0.97	0.23	N-90°-E	
7	13	96-103	不整形	1.75	(1.50)	0.18	—	
8	21	97-104	楕円形	0.89	0.61	0.23	N-16°-E	SD19
9	14	97-103	不整形	1.12	—	0.16	—	SD5
10	15	97-103	不整形	2.18	—	0.07	—	SD5
11	12	96-97-104	不整形	3.72	1.95	0.22	N-7°-E	
12	2	97-107	略長方形	1.85	0.49	0.07	N-9°-E	
13	1	97-107	略長方形	2.00	0.51	0.08	N-11°-E	
14	3	97-107-108	不整形	1.80	0.81	0.11	N-85°-E	SD1・SB1を切る
15	4	97-107	楕円形	1.10	0.85	0.12	N-65°-W	
16	7	97-98-108	略長方形	2.27	0.48	0.08	N-9°-E	
17	50	97-108	円形	1.21	1.15	0.11	—	
18	5	97-108	円形	1.17	1.00	0.10	—	SB1を切る
19	31	99-91	—	2.20	(0.90)	0.24	—	SD100
20	27	98-91-92	楕円形	1.23	0.98	0.24	N-20°-E	
21	39	99-91-92	楕円形	2.77	1.74	0.24	N-82°-E	SD99-100
22	29	98-91-92	円形	2.53	2.28	0.25	—	
23	32	97-98-92	略長方形	2.28	1.30	0.20	N-90°-E	SD94
24	37	99-94	—	1.73	(0.70)	0.10	—	SD106-105
25	36	98-99-94	略長方形	2.56	0.55	0.10	N	SD108

番号	旧番	検出グリッド	平面形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方向	備 考
26	40	97-98-95	不整形	2.41	1.78	0.11	N-46°-W	S D109
27	34	98-95	長楕円形	1.00	0.48	0.13	N-30°-W	S D95
28	41	98-95-96	不整長方形	0.82	0.73	0.08	N-43°-W	S D109
29	47	98-95	楕円形か	1.16	(1.20)	0.18	N-70°-E	S D109・攪乱
30	42	98-96	不整形	1.03	—	0.06	—	S D30
31	43	98-96	—	2.72	(1.10)	0.17	—	S D110
32	48	98-97	不整形	1.58	1.00	(0.53)	—	S J 8・9 を切る
33	26	98-99	略長方形	1.38	0.45	0.17	N-46°-W	
34	24	98-99	楕円形	1.70	0.90	0.13	N-43°-W	S D75
35	19	99-102	略長方形	0.96	0.50	0.23	N-36°-E	
36	20	99-102	略長方形	1.60	0.70	0.04	N	S D51
37	25	99-102-103	円形	1.44	1.30	0.23	—	S D17
38	11	98-99-106	略長方形	1.66	0.95	0.22	N-14°-W	S D35
39	6	98-107	略長方形	1.57	0.57	0.16	N-14°-E	S D 1
40	8	98-108	略長方形	1.98	0.32	0.10	N-88°-W	
41	35	100-93	円形	1.22	1.15	0.16	—	
42	44	101-93	楕円形か	0.91	(0.95)	0.22	N-70°-E	S D99-112
43	46	101-93	楕円形	1.02	0.72	0.62	N-75°-E	S D104
44	38	101-94	楕円形	1.40	1.27	0.16	—	
45	45	100-95	楕円形	0.92	0.74	0.78	N	
46	23	100-103	円形	0.78	0.73	0.08	—	
47	10	101-105-106	不整形	1.28	0.78	0.23	N-87°-W	S D 7
48	9	101-107	円形	1.02	1.00	0.40	—	排水溝に切られる

(5) 井戸跡

第16地点で検出された井戸跡は、併せて20基であった。調査区の面積に違いがあるものの、第14地点=16基、第15地点=4基に比べ、分布密度が高いといえよう。すべての井戸跡が素掘り井戸であると考えられる。

以下順を追って記述していく。

第1号井戸跡 (第381・383図)

97-92・93グリッドに位置する。重複する遺構はない。湧水と井戸壁面の崩落の危険性のため、完掘することはできなかった。

深度の確認範囲が浅いため、確証を得るには至らなかったが、形状・規模から井戸跡であると判断した。

規模は1.52×1.91×(0.95)mを測る。平面形状は円形、断面形状は円筒状を呈する。壁面の崩落が度重ならしく、平面形状・断面形状ともに乱れている。遺構内や周辺部に、本井戸跡に伴うと思われるピットなどの施設は検出されなかった。

3は緑釉陶器であるが、表面に二次的な被熱の痕跡がみられる。

遺物の出土は比較的少なく、図化し得た遺物は4点であった。

第2号井戸跡 (第381・383図)

97-97グリッドに位置する。S J 5を切っている。井戸跡壁面と土層断面崩落の可能性と、湧水のため完掘には至らなかった。

規模は1.91×1.52×(0.95)mを測る。平面形状は円形を呈する。断面形状については円筒状を呈すると思われるが、ロート状を呈する可能性もある。その場合、深さ20cmほどの位置で屈曲する、直径約150cmの円形を呈する段をもつことになる。

井戸跡が井戸として機能していた期間に、汀線の移動が度重ならしたためか、壁面は崩落を繰り返したらしく、断面形状は大きく乱れている。

遺構内や周辺部に、本井戸跡に伴うと思われるピットなどの施設は検出されなかった。

4の、須恵器の大甕底部は、4層下部～5層にかけてのレベルで正位の状態検出された。

遺物の出土は少なく、図化し得た遺物は須恵器の高台付環や大甕など、計4点であった。

第3号井戸跡 (第381・383図)

97-99グリッドに位置する。他の遺構との重複関係はない。底面まで完掘することができた数少ない井戸跡の1つであった。

規模は0.84×0.75×1.45mを測る。深度的に井戸と見なすにはやや疑問も残る。しかし、本遺構底面の標高値は22.37mであり、他の完掘し得た井戸跡の標高値に較べても遜色ないことから、井戸跡であると判断した。

因みに、完掘し得た他の井戸跡底面の標高値は、第14地点：S E 2=22.52m、S E 3=21.74m、S E 4=21.74m、S E 6=22.35m、S E 7=22.26m、S E 8=22.11m、S E 10=22.24m、第15地点：S E 2=22.18m、第16地点：S E 9=21.85m、S E 12=21.98m、S E 15=21.85mである。

土層の堆積状況からみて、本井戸跡は人為的埋め戻しの可能性が考えられる。

遺構内や周辺部に、本井戸跡に伴うと思われるピットなどの施設は検出されなかった。

図化し得た遺物は比較的多く、土師器・須恵器・灰釉陶器併せて、計6点であった。

第4号井戸跡 (第381図)

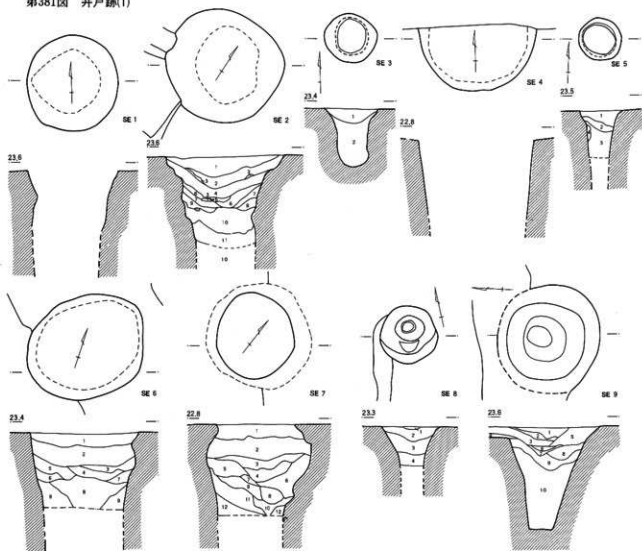
96-101・102グリッドに位置する。遺構の北半部は、調査範囲外に続いている。今回の調査で検出された井戸跡の中で、最も北に位置する井戸跡である。

規模については(1.9)×(1.9)×(1.27)mを測るが、基本土層面の観察から、掘り込み面からの深度が2mに達した位置でも、底面には至っていない。平面形状は円形、断面形状はロート状を呈すると思われる。

断面図上では標高22.6m程の位置(=遺構確認面)から掘り込みかたちとなっているが、本遺構は調査区境界線上に位置しているため、この土層断面の観察からある程度の所見を得ることができた。

本井戸跡は標高23.6m程のレベルから、基本土層のV・VI層を切って掘り込んでおり、掘り込み面直上を

第381図 井戸跡(1)



第2号井戸跡土層

- 1 灰褐色土 シルト・Mn多、酸化鉄・焼土粒子・炭化粒子少
- 2 灰褐色土 シルト・Mn少、焼土・炭化粒子多、地山粒子少
- 3 暗褐色土 シルト質、地山ブロック
- 4 灰土 焼土・炭化・地山粒子少
- 5 暗灰色土 焼土・炭化・地山粒子少
- 6 灰褐色土 粘質土、焼土ブロック多、地山ブロック多
- 7 暗灰色土 粘質土、炭化物、焼土、地山粒子、地山ブロック
- 8 暗褐色土 シルト質、地山ブロック、壁崩落土
- 9 褐色土 シルト質、壁崩落土
- 10 黒灰色土 粘質土、地山ブロック・地山粒子多、炭等含まず
- 11 青灰色土 均質な粘質土

第3号井戸跡土層

- 1 暗灰褐色土 粘質シルト、Mn・焼土炭化粒子多
- 2 暗灰色土 地山粒子多、炭化物少量

第5号井戸跡土層

- 1 暗灰褐色土 Mn・焼土・炭化物粒子多、地山粒子少
- 2 暗灰色土 3層よりやや明るい、地

- 山粒子微量、Fe少
地山粒子少、炭化物微
- 3 暗灰色土
 - 4 壁崩壊土

第6号井戸跡土層

- 1 暗褐色土 シルト質、地山の大ブロック多、二酸化鉄少
- 2 暗褐色土 シルト質、地山の大ブロック多、1層より明るい
- 3 暗灰褐色土 粘質土、地山ブロック多、炭化物粒子少
- 4 青灰色土 粘質土、グライ化
- 5 暗灰褐色土 粘質土、暗灰色土・地山ブロック・ブロック少
- 6 暗灰褐色土 粘質土、暗灰色土・地山ブロック・ブロック若干
- 7 暗灰色土 粘質土、地山土多
- 8 暗灰色土 粘質土、比較的均質
- 9 暗青灰色土 地山ブロック少

第7号井戸跡土層

- 1 暗褐色土 シルト質、地山の大ブロック、酸化鉄少
- 2 暗灰褐色土 シルト質
- 3 暗褐色土 粘質シルト、酸化鉄少
- 4 暗灰褐色土 粘質シルト、地山ブロック少
- 5 暗灰褐色土 粘質シルト、地山粒子少
- 6 暗褐色土 シルト質、地山粒子若干

- 7 暗灰色土 粘質土
- 8 暗灰色土 粘質土、地山粒子少
- 9 青灰色土 粘質土、グライ化
- 10 暗灰色土 粘質土、8層に近似
- 11 暗灰褐色土 粘質土、9層より褐色
- 12 暗青灰色土 粘質土

第8号井戸跡土層

- 1 暗褐色土 シルト質、酸化鉄少
- 2 暗灰色土 粘質土、酸化鉄少
- 3 暗灰色土 粘質土、地山ブロック少
- 4 暗灰色土 粘質土、地山ブロック

第9号井戸跡土層

- 1 暗褐色土 シルト質、Mn多、焼土粒子・地山細粒子少
- 2 暗灰褐色土 シルト質、焼土粒子・炭化粒子少
- 3 灰褐色土 シルト質、1層に近似、地山粒子多
- 4 暗灰褐色土 粘質土、地山粒子少
- 5 灰褐色土 粘質土、Mn少、均質
- 6 灰土 粘質土、地山粒子多
- 7 黒灰色土 黒色土若干
- 8 暗灰褐色土 均質な粘質土
- 9 暗灰色土 地山ブロック少
- 10 暗灰色土 炭化物・地山粒子若干

0 2m